

令和6年度

診療のご案内

YOKOHAMA CHUO HOSPITAL



独立行政法人 地域医療機能推進機構

横浜中央病院

Yokohama Chuo Hospital

ご挨拶



院長 川田 望

地域医療に携わる皆様へ

時は2024年7月、横浜から遠く離れたフランスパリで第33回オリンピック競技大会が開催されました。3年前の2021年7月には第32回大会が東京で予定より1年遅れて開催されました。たった100nmの大きさの新型コロナウイルスのために多くの大会が無観客で開催されました。全国様々な会場では無観客で、多くの競技大会が開催されました。テレビ中継をみても、いつもの躍動感を感じないままに、閉会式を厳かに見守っていたのは私だけではないはずです。

一転して、今年の大会でははじけるような開会式が雨天の中、開催されました。続いて、様々な種目では歓声が響き渡る中、競技が開催されました。晴れ渡る青空のもと、大観衆の声援のなかで繰り広げられる様々競技に、時間を忘れてテレビの前で声援を送ったことが、かけがえのないひと時となりました。振り返って2021年にこの光景を、だれが予見できたでしょうか。

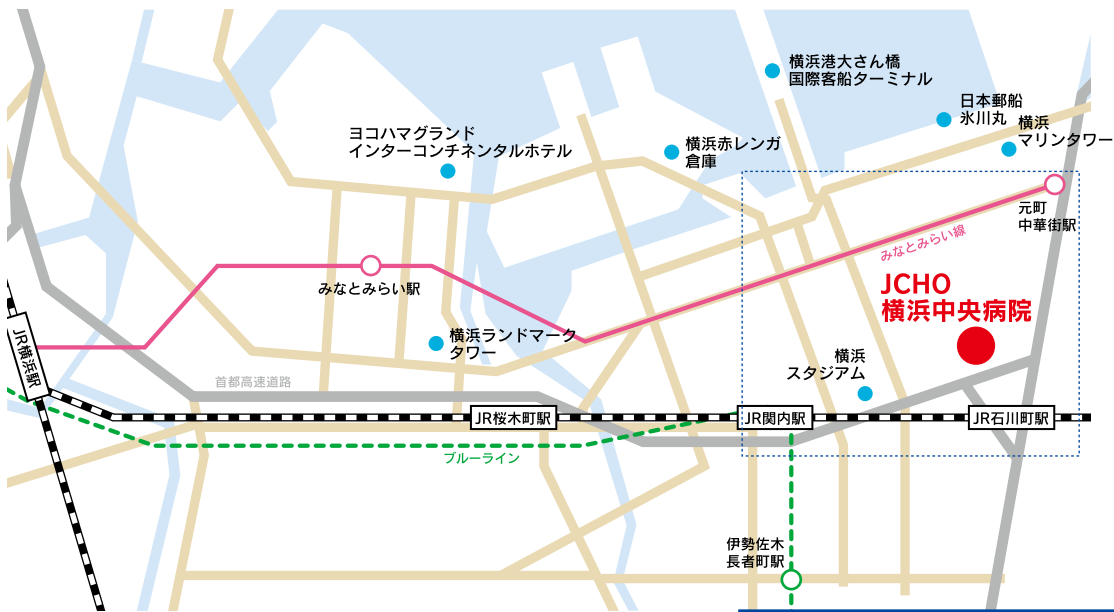
さて、コロナの現実に戻ると、第5類に区分が変更されたものの、油断はできません。2024/2025シーズン用新型コロナワクチンについて、インフルエンザのワクチン同様に摂取の準備を進めています。そして、地域医療機関がコロナを含めた感染症で対応、連絡し、各施設が協力して診療することをさらに強化いたします。これからも地域住民の様々な要望にこたえ、生活を支えるため、皆様の立場に立った医療を提供し、「**温かい心と気配りの医療**」を基本理念に皆様のお役に立ちたいと考えています。そして今後も変わらぬ姿勢で、地域医療に対処して皆様と共に明るい未来を創っていきたいと思います。

この度、当院の新しい診療案内が出来上がりました。是非、日々の地域医療連携にご活用いただきたいと思います。

病院の基本理念

温かい心と気配りの医療

ACCESS



電車で来院される方

JR根岸線 【石川町駅】北口下車 徒歩3分

JR根岸線 【関内駅】南口下車 徒歩8分

バスで来院される方

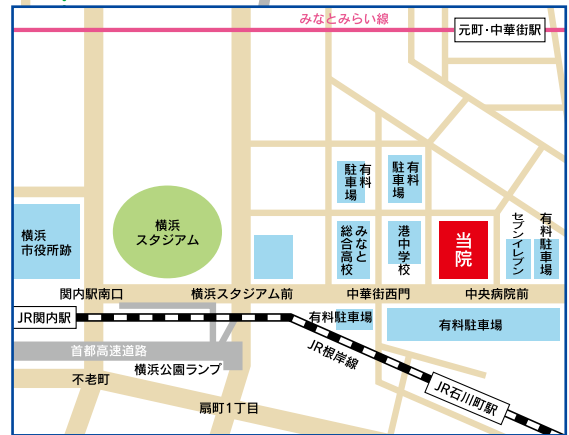
【吉浜橋】停留所下車

バス番号105 106 101 99 21

お車で来院される方

首都高速横浜公園ランプより、磯子方面へ関内駅南口信号を左折、不老町信号を左折
扇町1丁目信号を左折、横浜スタジアム信号を右折し直進500m

※当院には駐車場がございませんので、周辺の有料駐車場をご利用ください。



独立行政法人 地域医療機能推進機構

横浜中央病院

Yokohama Chuo Hospital

〒231-8553 横浜市中区山下町268番地

代表TEL.045-641-1921

地域ケアサービスセンター

〒231-8553 横浜市中区山下町268番地

直通TEL.045-681-9534 専用FAX.045-681-9542



目次

I 病院概要	2
II 患者紹介・逆紹介について（医療機関等の皆様へ）	
(1) 診療予約について	4
(2) 検査予約について	4
(3) 当日の緊急受診および入院依頼について	4
(4) 逆紹介について	4
(5) 登録医制度について	5
III 各診療科のご案内	
内科・救急科	6
総合診療科	10
消化器・肝臓内科	16
内視鏡センター	22
腎臓・人工透析内科	24
呼吸器内科	28
循環器内科	30
外科	40
血管外科	44
脳神経外科	48
整形外科	50
皮膚科	53
泌尿器科	54
眼科	56
放射線科	58
歯科口腔外科	60
麻酔科	62
ペインクリニック内科	63
IV 地域ケアサービスセンターのご紹介	64
V 訪問看護ステーションのご案内	66
VI 健康管理センターのご紹介	68
VII 帳票綴り	70

I 病院概要

1. 名称

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院

2. 所在地

〒231-8553 神奈川県横浜市中区山下町 268番地
電話 045-641-1921 (代表) FAX 045-671-9872

3. 管理職者

院長	川田	望
副院長	大岩	功治
副院長	岸本	裕一
副院長	藤川	博敏
看護部長	茂木	真由美
事務部長	中内	大輔
統括診療部長	中島	伸哉
名誉院長	藤田	宜是

4. 標榜診療科

内科 腎臓内科 人工透析内科 呼吸器内科 消化器・肝臓内科
循環器内科 血管内科 外科 消化器外科 乳腺外科 大腸外科
肛門外科 呼吸器外科 化学療法外科 血管外科 整形外科 脳神経外科
泌尿器科 婦人科 皮膚科 眼科 放射線科 麻酔科
ペインクリニック内科 リハビリテーション科 歯科口腔外科
病理診断科 救急科
(専門外来) 腎機能改善外来 禁煙外来 慢性呼吸不全外来 肝臓外来
ペースメーカー外来 骨粗鬆症外来 もの忘れ外来 フットケア外来

5. 病床数

許可病床数 250床
一般病棟250床 (うちHCU6床 地域包括ケア病棟50床)

6. 附属施設

健康管理センター 訪問看護ステーション

7. 夜間休日体制

内科系医師1名、外科系医師1名

8. 病院機能

救急告示病院 横浜市二次救急応需病院 横浜市心疾患救急医療体制参加医療機関 横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関 臨床研修病院 DPC対象病院 基幹型臨床研修病院

9. 休診日

土曜日 日曜日 祝祭日 年末年始 (12月29日～1月3日)

10. 外来診療受付時間

午前7時50分～11時30分

※詳細は、別頁「外来受付・診療開始時間表」をご参照ください。

11. 主な検査・医療機器

※「各診療科のご案内」をご参照ください。

12. 手術室

5室（うちバイオクリーンルーム1室）

13. 血液透析室

25床（月～土曜：2クール）

14. 内視鏡室

検査台 2台

15. 外来化学療法室

8床

16. 診療実績（令和5年度）

外来患者数：1日平均 420.6人、年間 102,203人

入院患者数：1日平均 177.3人、年間 64,891人

病床利用率：70.9% 平均在院日数：17.4日 年間手術件数：2,763件

紹介患者数：1日平均 15.4人、年間 3,747人 紹介率：72.2%

逆紹介患者数：1日平均 23.2人、年間 5,630人 逆紹介率：108.4%

17. 学会認定施設等取得状況

日本内科学会教育関連施設	日本外科学会専門医修練施設
日本腎臓学会研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本透析医学会教育関連施設	日本がん治療認定医機構研修施設
日本肝臓学会研修施設	日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
日本消化器病学会研修施設	日本整形外科学会研修施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本泌尿器科学会関連教育施設
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本眼科学会研修施設
日本超音波医学会超音波専門医指導施設	日本麻酔科学会
日本循環器学会研修施設	日本口腔外科学会准研修施設
日本高血圧学会研修施設	日本消化器がん検診学会指導施設
日本心血管インターベンション治療学会研修 関連施設	日本脳ドック学会認定施設
日本急性血液浄化学会指定施設	一次脳卒中センター
	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設

Ⅱ 患者紹介・逆紹介について(医療機関等の皆様へ)

(1) 診療予約について(患者様・ご家族からのTELでも予約可能です)

- ①直通電話または外来診療予約申込書に必要事項をご記入のうえ専用FAXにて、ご連絡ください。
- ②患者様のご氏名・生年月日をお伺いします
* 予約日程が決定後、『診療受付書』をFAX返信いたしますので、患者様にお渡しください。

(2) 検査予約について(紹介元の先生・スタッフさんからのご連絡)

- ①CT・MRI予約について
* 直通電話または『CT・MRI検査申込書(診療情報提供書)』をご記入のうえ専用FAXにて、ご連絡ください。
* ご希望の検査内容と検査日をお教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。
* 予約日程が決定後、『診療受付書』『予約票』『問診票・同意書(MRI検査のみ)』をFAX返信いたしますので、患者様にお渡しください。
* 画像診断報告書を検査日より1週間程度で郵送させていただきます。
- ②内視鏡予約について
* 直通電話または『内視鏡検査申込書 兼 診療情報提供書(紹介元医師記入用)』をご記入のうえ専用FAXにて、ご連絡ください。
* ご希望の検査日をお教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。
* 予約日程が決定後、『診療受付書』『予約票』をFAX返信いたしますので、患者様にお渡しください。
* 読影終了次第、検査結果報告書をFAX・郵送いたします。
- ③心臓超音波予約について
* 直通電話または『心臓超音波検査申込書 兼 診療情報提供書』をご記入のうえ、心電図を添付し専用FAXにて、ご連絡ください。(ない場合当院で心電図検査を施行いたします)
* ご希望の検査日をお教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。
* 予約日程が決定後、『診療受付書』『予約票』をFAX返信いたしますので、患者様にお渡しください。
* 読影終了次第、検査結果は郵送いたします。

(3) 当日の緊急受診および入院依頼について

- ①直接電話にて、地域ケアサービスセンターにご連絡ください。
- ②患者氏名、年齢、性別、病状、既往歴、バイタル、認知症の有無・程度、家族の有無、酸素使用有無等の**必要最小限の情報**を伺った後、空床確認及び医師への相談を行い素早くお返事いたします。
- ③受入決定後、当院への来院方法及び到着予定時刻、付き添いの有無等を伺います。

(4) 逆紹介について

当院では紹介状による受診だけでなく逆紹介による受診にも取り組んでおります。かかりつけ医からの紹介により、当院で専門的な検査や高度な医療設備での治療などを行っ

た後、病状が安定した場合は、当院から紹介元のかかりつけ医へ逆紹介します。

病状が安定して専門的な検査や高度な医療設備が不要であれば、より身近なかかりつけ医で経過を診てもらうことで、患者様がより安心できる医療サービスを提供したいと考えております。

(5) 登録医制度について

地域医療機関との機能分化を踏まえ、地域包括ケアを目指して地域の先生方と病院、地域住民の方により良い医療連携を構築するシステムを確立すると共に、それぞれの機能の向上と地域医療の充実、発展を図るため、登録医制度を運用いたします。

登録医認定後は、以下の特典・サービスをご利用いただけます。

① 横浜中央病院 登録医の称号をご使用いただけます

登録医である旨を名刺等に掲載いただくことが可能となります。

また、登録が完了しましたら、登録医証をお届けいたしますので、受付や診察室などへの設置をお願いいたします。

② 診療予約等の優先診療が可能となります

ご紹介いただく患者様の診療予約が可能となります（一部予約できない科もありますが、その場合も優先的に診察させていただきます）。

③ 優先的に逆紹介いたします

当院に通院中で「かかりつけ医」がなく、診断確定後や病状が安定し、長期服薬治療や経過観察等の患者様については、専門領域を勘案した上で登録医の先生を優先的に「かかりつけ医」としてご紹介させていただきます。

④ 利用可能な設備

CT・MRI・内視鏡検査・心臓超音波検査について、登録医医療機関から直接予約が可能です。予約のご連絡先は、FAX（専用予約用紙）またはお電話にて地域ケアサービスセンターへお願いいたします。

⑤ 当院ホームページ等にて登録医としてご紹介いたします

ご希望に応じて、当院ホームページに登録医名の掲載及び院内での掲示をさせていただきます。また、当院内所定の場所において登録医療機関名の掲示をしております。

⑥ 当院主催の学術集会へのご参加ができます

当院主催の勉強会・症例検討会等の学術集会への参加・情報交換ができます。また、登録医の先生方から議題の提案も承ります。

⑦ 定期的にお知らせをお送りします

「当院からのお知らせ」「広報誌」「外来担当医表」「日当直表」等を定期的に送付させていただきます。

⑧ 紹介患者様の情報を閲覧いただけます

当院担当医師の同意のもと、紹介患者様のカルテの閲覧及び診療上必要と思われる事項について情報を得ることができます。

※事前に紹介患者様の了承が必要です。

⑨ 紹介状様式をお届けいたします

紹介状様式はホームページに掲載しておりますのでご利用ください。「当院専用紹介状」「当院専用紹介状用封筒」が必要な際には、ご連絡ください。

⑩ 紹介患者様は原則として紹介元に逆紹介いたします

患者様の容態やリハビリ・長期療養が必要な場合は、専門施設等へ転院していただく場合がございますので、予めご了承をお願いいたします。

Ⅲ 各診療科のご案内

内科・救急科

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	大岩 功治 ・ 副院長 ・ 内科部長 ・ 救急科部長 ・ 地域ケアサービスセンター長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学博士 ・ 日本大学医学部臨床教授 ・ 日本内科学会 認定医 ・ 日本循環器学会 専門医 ・ 日本内科学会教育施設指導医 (教育責任者) ・ 日本高血圧学会 専門医 ・ 日本高血圧学会 指導医 ・ 日本医師会 認定産業医 ・ 日本急性血液浄化学会 指導医 ・ 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 ・ 日本心血管インターベンション治療学会 専門医 ・ 臨床研修医指導医
	稲村 恒明 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病専門
	京原 麻由 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市立大学付属病院 内分泌・糖尿病科
	高橋 明裕 ・ 非常勤医師 (木曜日午後)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市立大学付属病院 内分泌・糖尿病科
	吉澤 和大 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ みなと赤十字病院 救急科
	鯨岡 裕平 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ みなと赤十字病院 救急科
	中村 圭孝 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ みなと赤十字病院 救急科
	市川 遊理 ・ 非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・ みなと赤十字病院 救急科
	福本 由香里 ・ 非常勤医師 (月曜日診察)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学付属板橋病院 総合内科
	山田 和志 ・ 非常勤医師 (火曜日診察)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学付属板橋病院 総合内科
	徳永 遼 ・ 非常勤医師 (水曜日診察)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学付属板橋病院 総合内科

	医師名・役職	認定医・専門医
	莫根 康平 ・非常勤医師（木曜日診察）	・ 日本大学附属板橋病院 総合内科
	林 慶将 ・非常勤医師（金曜日診察）	・ 日本大学附属板橋病院 総合内科

■ 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
総合内科	福本 由香里 (日大)	山田 和志 (日大)	徳永 遼 (日大)	莫根 康平 (日大)	林 慶将 (日大)
糖尿病内科		稲村 恒明 (PM)		高橋 明裕 (市大・PM)	京原 麻由 (市大)
救急科 (救急車担当)	AM山田(将)/ 八幡 PM 福本	AM 柏木/ 井戸田 PM山田(和)	AMみなと日赤医師 PM徳永/ みなと日赤医師	AM 井上 PM 莫根	AM 谷江 PM 林

■ 診療内容・特色

総合内科・救急科

おもに内科系の初診外来および救急対応を行っております。

総合内科は、内科新患者を中心に、内科全般の診療を行っています。医師は日本大学板橋病院総合内科の協力を得て構成しています。

内科系救急搬送については、担当医を決めて対応しております。午後の救急担当医は総合内科医師となります。

当院は横浜市2次救急病院として、救急医療を行っています。24時間365日の急患対応を行っており、2022年度は病院全体で救急車の搬送数が3,377件で、そのうち内科で取り扱った救急患者は1,767件搬送を受けております。

救急科では、救急対応には、みなと赤十字病院救命センター救急科の協力を得て、毎週水曜日は応援医師が担当致します（その他の曜日は当院医師にて対応致します）。

また救急対応時には、初期臨床研修医も参加させていただき、指導医とともに初期救急対応を行わせておりますので、ご理解ください。

院内心肺蘇生講習会も定期開催しており、ICLS講習会も開催しております。



糖尿病内科

糖尿病は生活習慣と社会状況の変化に伴い急激に患者数が増えており、潜在的な患者数も含めると増加の一途です。糖尿病は合併症が怖い疾患として有名ですが、特に網膜、腎臓、神経系に異常をきたすことがあり、心血管疾患を併発して致命的になることもあります。このため近年は、新しい薬が多数開発されており、その使用方法や実際のコントロールの基準がガイドラインとして発表されております。

当院では糖尿病患者様の外来診療を、横浜市立大学付属病院内分泌・糖尿病科の医師の協力にて、糖尿病専門外来を行っています。近年、神奈川県は糖尿病対策推進プログラムを進めており、当院でも糖尿病合併症重症化対策として総合診療科を中心に外来での集中的検査を行っております。また、糖尿病教育入院も随時総合診療科の協力にて対応させていただきます。

血糖コントロールが困難な患者様や食事指導などでお困りの方がいらっしゃいましたら、地域ケアサービスセンターにてご予約を承っております。よろしくお願いたします。

■ 糖尿病合併症スクリーニング検査について

【目 的】 糖尿病合併症の早期発見・早期治療

【内 容】 糖尿病合併症に関連する12項目の検査を1日で行います。

検査結果については、患者様に直接説明するとともに、紹介元に書面にて報告します。異常が見つかった場合は当院の専門科に自動的に引き継がれ、追加検査や治療

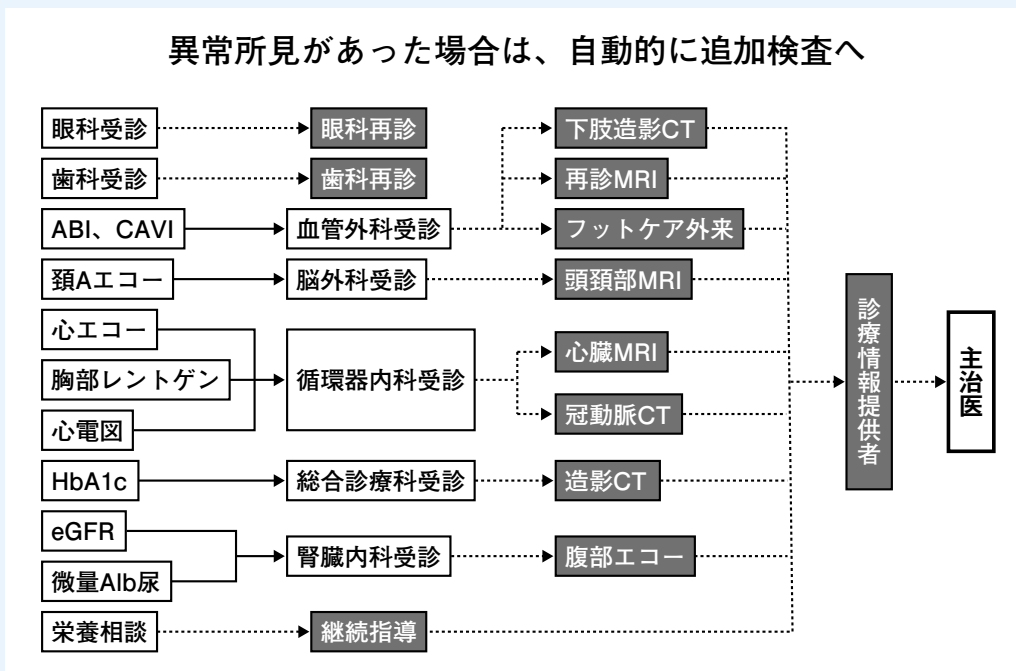
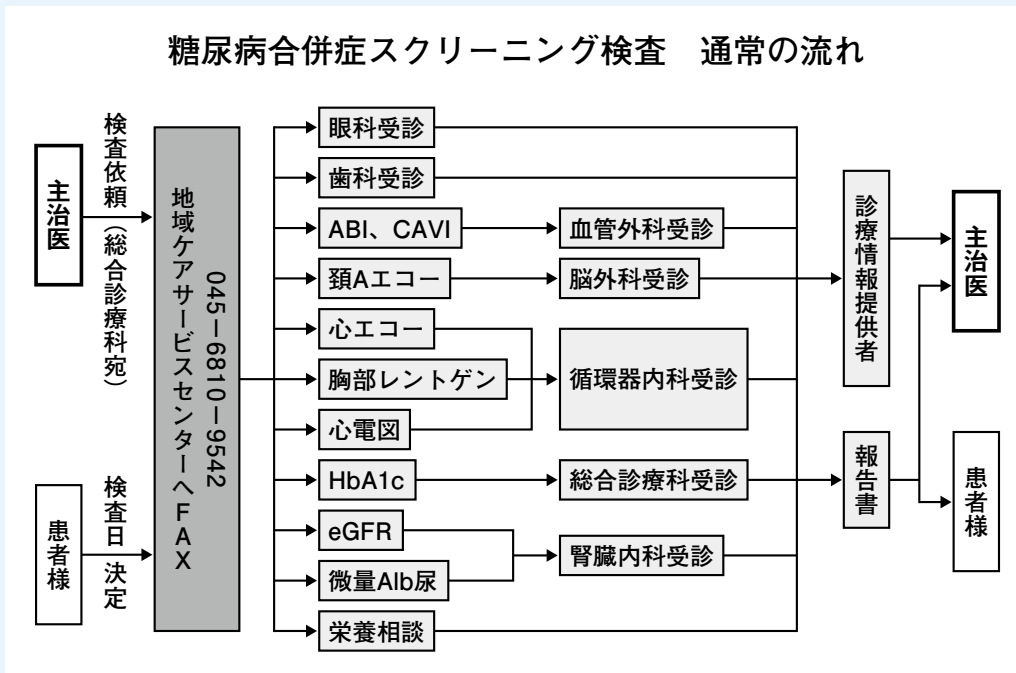
に進みます。糖尿病自体に対する治療は、引き続き地域の先生方をお願いする形になります。

【検査項目】 HbA1C、微量アルブミン尿、BUN/Cre/eGFR、ABI、心電図、心エコー、頸動脈エコー、眼科受診による眼底検査、歯科受診による歯周病の検査、血管外科による下肢の診察、総合診療科による問診、栄養課による栄養指導

【実施日】 火、金 1日4人まで

【費用】 約4,500円

【依頼方法】 総合診療科宛の紹介状（氏名、年齢、性別、既往歴、内服薬、連絡先）と検査データを地域ケアサービスセンターにFAX（FAX：045-681-9542）してください。当院から直接患者様へ連絡し、検査日を決定します。



総合診療科

医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	藤川 博敏 ・副院長 ・消化器・肝臓内科部長	・医学博士 ・日本内科学会総合内科指導医・専門医 ・日本消化器病学会指導医・専門医 ・日本肝臓学会指導医・専門医 ・日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 ・総合診療専門研修 特任指導医 ・日本消化器病学会 関東支部評議員 ・プログラム責任者講習会修了 ・日本大学医学部 消化器肝臓内科 兼任講師 ・鶴見大学歯学部 内科学 兼任講師
	神田 弘太郎 ・医長	・内科認定医 ・日本循環器学会専門医 ・総合診療専門研修 特任指導医
	小澤 康太 ・医長	・総合診療専門研修 特任指導医
	谷江 智輝 ・医員	・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医 ・日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医 ・日本人間ドック・予防医療学会 人間ドック健診情報管理指導士 ・日本女性心身医学会 更年期指導士 ・日本救急医学会 ICLSコースインストラクター

外来診療担当医表

外来診療は、紹介予約制としております。

月	火	水	木	金
谷江 智輝	小澤 康太	小澤 康太	谷江 智輝	神田 弘太郎

■ 診療内容・特色

当院の総合診療科は、地域医療と病院を円滑に結ぶ役割の中心となる病院総合医と位置付けております。

主に地域実地診療の先生や介護施設などから紹介される診療科の分類が難しい患者さまに対応し、入院治療を担当いたします。在宅医療のバックアップとして地域包括ケア病棟に直接入院が必要なレスパイト的な入院なども担当いたします。在籍する医師は、各々専門的な診療科にて研修を重ねており、総合診療的のマインドを持ち合わせた専門的医師であることも当院の特徴です。

横浜中央病院における総合診療科は一般的な総合診療科ではありません。

当院では平成30年4月から新しい診療科として総合診療科を立ち上げさせていただきました。総合診療科と聞いて、多くの皆様の頭に浮かぶのはNHKの「ドクターG」という番組ではないでしょうか。見落としていた症状をヒントに、どこの病院に行っても分からなかった病気を診断していくという、医療版の謎解きバラエティー番組です。世間一般に言われる総合診療科とは、このドクターGのような診断学のプロフェッショナルを指す名称です。

しかし、横浜中央病院における総合診療科は一般的なそれとは異なる科となっています。当院の総合診療科が目指しているのは、医療面のみならず、患者様の社会面や環境面などの介護療養生活までも含めて総合的に診療していくことです。

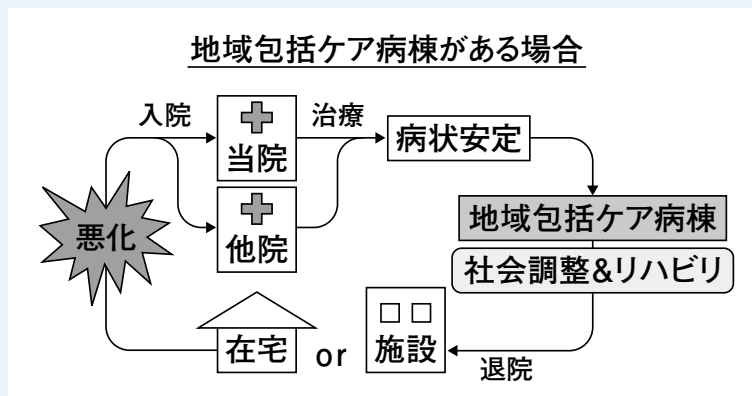
具体的な診療内容としては、認知症に対する社会調整や老衰により食事摂取困難に対する栄養ルートの選択、癌ターミナル患者の癌性疼痛のコントロールや看取り場所の再検討などといった、医療・介護・福祉といった多方面からの介入が必要な患者様を診療させていただいています。このような複雑な背景をお持ちの患者様には、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・栄養士・ケアマネジャーなど多職種による連携の下で、時間をかけて患者様やご家族様に寄り添った関わり方を考えていくことが重要となってきます。地域で皆様のご診療の中にも、時間の限られた外来診療や在宅診療では十分に対応をすることが難しい患者様がおられるかと思えます。そのような患者様がいらっしゃいましたら、是非お気軽に当院の総合診療科にご相談いただければと存じます。

■ 地域包括ケア病棟について

当院の病床は急性期病棟200床と地域包括ケア病棟50床から成っています。世の中で地域包括ケアの推進が叫ばれ始めてからかなりの時間が経ちました。しかし、地域包括ケア病棟の役割や具体的な機能については、まだ十分に認知されていないように思われます。そこで、3つの地域包括ケア病棟の活用方法についてご説明します。

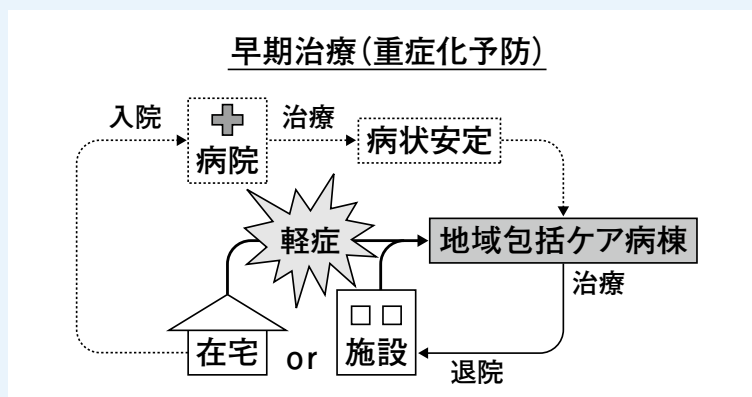
① 在宅調整&リハビリ

1つ目は急性期入院から療養環境(在宅や施設)へ復帰する前のワンクッションとして地域包括ケア病棟を挟む使い方です。急性期入院で落ちたADLに対してリハビリを行ったり、介護サービスを新たに組み直したりと在宅復帰の準備期間をしっかりと確保することで、退院後の療養生活が破綻することを予防することが可能です。他院の急性期病床で治療を終えられた方を転院で受け入れることも行っています。現在、当院ではこの方法での地域包括ケア病棟の利用が最も多くなっています。



②早期治療(軽症疾患)

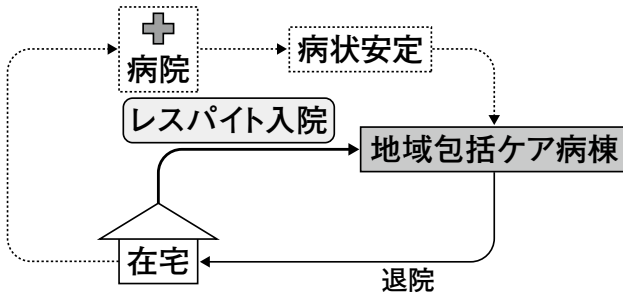
2つ目は、早期治療のために地域包括ケア病棟を使用する方法です。在宅診療において軽症なうちに早期入院して治療することで、重症化を予防し、ADLの低下を防ぎます。この目的で使用するにあたり、地域包括ケア病棟の入院のハードルは急性期病棟への入院基準と異なり、むしろ軽症ほど受け入れ易いと言えます。



③レスパイト入院

最後に、3つ目の方法としてレスパイト入院が挙げられます。レスパイトには、小休止という意味があります。レスパイト入院とは、主介護者(=介護する側の人)のための入院です。患者様本人の状態が悪化していなくても、主介護者が介護困難となる事情が生じた場合に入院を受け入れています。例えば、医療依存度が高くてショートステイでの受け入れが難しい場合や、介護疲れで共倒れになってしまうリスクが生じたり、主介護者が入院することになったりなどの理由で緊急避難が必要となった場合が挙げられます。他にも、年末年始やゴールデンウィークで介護サービスが十分に利用できない時にもレスパイト入院は利用することが可能です。通常、ショートステイの予約は何ヶ月も前に埋まってしまうことが多く、緊急で利用することは難しいのが現状ですが、地域包括ケア病棟を利用してのレスパイト入院であれば、早期での対応が可能であり、多くの医療行為に対応可能です。

レスパイト入院



レスパイト入院とは？

レスパイト入院: 主介護者のための入院

- | | |
|-----------|--------------|
| ① 介護疲れ | ④ 急用(冠婚葬祭) |
| ② 体調不良・入院 | ⑤ お出かけ・旅行・休暇 |
| ③ 在宅調整 | ⑥ その他緊急避難 |

通常はショートステイを利用する(要予約・医療行為に限りあり)

レスパイト入院なら

・即日入院可能 ・医療行為可能

 (要紹介状)

■ 地域包括ケア病棟を利用するにあたって

— お気軽に療養支援科にご相談ください —

地域包括ケア病棟は今後の超高齢化社会において、また在宅診療が増えていく中で上手く利用できれば地域医療と介護に貢献できる病棟だと考えております。その価値をより高めるために、当院では総合診療科を立ち上げさせていただきました。

当院の地域ケアサービスセンター内に**療養支援科**という部署を窓口として設置しております。地域包括ケア病棟の利用、総合診療科への依頼、地域の医療・介護、その他諸々について何でもお気軽にご相談いただけるようになっております。

何かお困りのこと、お問い合わせ等ございましたら、是非とも療養支援科にお電話いただければ幸いです。

療養支援科：045-641-1921（代表）

病院概要

患者紹介・逆紹介について

各診療科のご案内

地域ケアサービス
センターのご紹介

訪問看護ステーション
のご案内

健康管理センター

(巻末) 帳票綴り

M E M O

病院概要

患者紹介・逆紹介について

各診療科のご案内

地域ケアサービスセンターのご紹介

訪問看護ステーションのご案内

健康管理センター

(巻末) 帳票綴り

消化器・肝臓内科

上・下部消化管、肝・胆・膵疾患と消化器領域の疾患を幅広く診療しています。

医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	藤川 博敏 ・副院長 ・消化器・肝臓内科部長	<ul style="list-style-type: none"> ・医学博士 ・日本内科学会総合内科指導医・専門医 ・日本消化器病学会指導医・専門医 ・日本肝臓学会指導医・専門医 ・日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 ・総合診療専門研修 特任指導医 ・日本消化器病学会 関東支部評議員 ・プログラム責任者講習会修了 ・日本大学医学部 消化器肝臓内科 兼任講師 ・鶴見大学歯学部 内科学 兼任講師
	中河原 浩史 ・内視鏡センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・医学博士 ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本消化器病学会指導医・専門医・評議員 ・日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・学術評議員 ・日本超音波医学会認定指導医・専門医・代議員 ・日本胆道学会認定指導医 ・日本肝臓学会指導医・専門医 ・日本消化管学会胃腸科指導医・専門医 ・日本消化器がん検診学会指導医・総合認定医・代議員 ・日本がん治療認定医機構認定医
	金子 桂士 ・医長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会指導医・認定医 ・日本消化器病学会専門医・関東支部評議員 ・日本消化器内視鏡学会専門医・関東支部評議員 ・日本肝臓学会専門医 ・日本消化管学会胃腸科指導医・認定医 ・日本消化器がん検診学会認定医・関東甲信越支部評議員 ・難病指定医 ・緩和ケア研修会修了
	菊田 大一郎 ・医長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会 内科認定医・総合内科専門医・指導医 ・日本消化器病学会 専門医・指導医・関東支部評議員 ・日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・関東支部評議員 ・日本肝臓学会 専門医 ・日本超音波医学会 専門医 ・日本消化器がん検診学会 総合認定医・関東甲信越支部代議員 ・難病指定医 ・緩和ケア研修会修了

	医師名・役職	認定医・専門医
	芳賀 大生 ・医員	・日本内科学会 内科専門医 ・日本消化器病学会 専門医
	河田 洲 ・医員	
	井上 隼輔 ・医員	
	有間 修平 ・非常勤医師（水曜日診察）	・日本内科学会認定医 ・日本消化器病学会専門医 ・日本肝臓学会専門医 ・日本消化管学会胃腸科専門医

■ 施設認定

- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医指導施設
- ・日本胆道学会認定指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本消化器がん検診学会認定指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設

■ 診療科の目標

消化器・肝臓内科は、日本消化器病学会専門医や指導医が中心となって、肝臓、胆道、膵臓、消化管疾患など広い分野の診療にあたっています。

外来診療では地域医療を大切にしており、プライマリ・ケアから急性期、慢性期、終末期に至る消化器疾患の患者様を、近隣の診療所をはじめとする医療機関や隣接した地域から、積極的にお受けしております。またチーム医療を重視しており、内視鏡センター、外科チーム、化学療法チーム、緩和医療チーム、コメディカルと密に連携をとり、患者様に最適な医療を提供しております。

■ 診療内容・特色

部長の専門分野である肝臓は沈黙の臓器と言われ、症状がでにくい臓器です。外来では多くの患者様に慢性B型肝炎への核酸アナログ製剤や慢性C型肝炎へのDAA療法を行っています。自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、非アルコール性脂肪性肝炎、原因不明の肝疾患には積極的に生検病理診断を行っています。これら慢性肝疾患は血液検査や腹部エコーなどの画像検査を行わないと発見できず、気付かないうちに線維化が進んだ肝硬変にまで至ることがあります。当院ではファイブrosキャンを用いて、非侵襲的に肝臓の硬さと脂肪量をスクリーニング測定し、外来で経時的に測定することで肝硬変への進行を食い止める治療を行っています。ファイブrosキャンについての外来は藤川(月、木)が担当しています。

肝硬変に対しては食事指導や薬物治療を行い、腹水貯留や肝性脳症など肝不全に進行した場合は入院での加療を行っています。食道胃静脈瘤を合併した場合は、内視鏡的静脈瘤硬化療法および結紮術、バルーン下逆行性経静脈的塞栓術も行っています。

肝細胞癌には、肝動脈化学塞栓療法、ラジオ波熱凝固療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などによる集学的治療を積極的に行っています。

2019年春から医師の交代により特に胆道、膵臓疾患の診療の幅が広がりました。胆嚢、胆管、膵臓疾患は、結石などの良性疾患から胆道癌や膵癌などの悪性腫瘍まで様々な疾患があります。黄疸や腹痛で発見されることが多く、急性胆嚢炎や胆管炎のように感染を伴っていると重症化しやすく、緊急でのドレナージを要することもあります。当院では、急性胆管炎や胆嚢炎に対しては重症度に応じて積極的にドレナージ治療を行っています。総胆管結石に対しては外科的手術に比べて侵襲の少ない、内視鏡的胆管結石除去術を行っています。切除不能な胆嚢癌、胆管癌、膵癌に対しては化学療法を行い、癌によって生じる疼痛に対しては緩和チームと共に診療を行っています。また、膵癌は予後が悪い疾患であるため、早期発見にも力をいれています。当院では膵管内乳頭粘液性腫瘍や糖尿病など膵癌の危険因子とされる疾患を持っている方には定期的に腹部エコー、CT、MRI、超音波内視鏡を用いて画像検査を行い、癌の早期発見に努めています。胆道、膵臓疾患についての外来は中河原(火)が担当しています。

■ 主な対象疾患・治療

胆道、膵臓疾患については疾患ごとに当院での治療を御紹介します。

○急性胆嚢炎

急性胆嚢炎は胆嚢結石症を伴っていることが多く、腹痛、黄疸、発熱などの症状で発症します。血液検査では肝胆道系酵素の上昇がみられ、腹部超音波や腹部CTでは胆石に加え、胆嚢腫大、壁肥厚、胆泥などの所見がみられます。診断後は急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2018にそって重症度判定を行い、治療方針を決定しています。中等症までの急性胆嚢炎では消化器外科と連

携をとり、可能な限り緊急で腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うようにしています。重症や腹腔鏡下胆嚢摘出術が困難な場合は、抗菌薬治療に加え、経皮経肝胆嚢ドレナージ術や経内視鏡的胆嚢ドレナージ術などのドレナージ術も併用しています。胆嚢結石症を合併している場合は急性胆嚢炎が落ち着いた後に、待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っています。

○急性胆管炎



急性胆嚢炎 (CT)



経内視鏡的胆嚢ドレナージ術



経皮経肝胆嚢ドレナージ術

急性胆管炎は発熱、黄疸で発症することが多く、重篤化すると意識障害や血圧低下をきたす危険な疾患です。悪性腫瘍や総胆管結石に伴う閉塞性黄疸、胆管ステントからの逆行性胆管炎が原因となります。急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン2018に準じて診断し、重症度分類を行い、治療方針を決定しています。絶食、抗菌薬投与に加え、重症の胆管炎に対しては緊急で内視鏡的胆管ドレナージも行っています。

○総胆管結石



内視鏡的胆管ドレナージ術

総胆管結石は腹痛、黄疸、発熱などで発症することが多い疾患ですが、無症候性のものもあり偶発的に発見されることもあります。感染を伴うと重篤な化膿性胆管炎を併発することがあるため、無症候性であっても原則治療が必要とされています。総胆管結石に対しては、内視鏡的乳頭切開術や乳頭拡張術で乳頭を広げ、内視鏡的に結石除去を行っています。積み上げ結石や巨大結石に対しては内視鏡的巨大バルーン拡張術も行っています。急性膵炎などの偶発症に注意が必要な処置であるため、日本消化器内視鏡専門医、指導医が中心に治療を行っています。



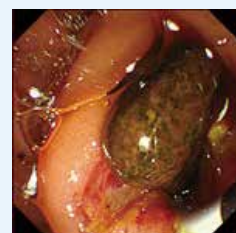
積み上げられた総胆管結石



内視鏡的乳頭切開術



内視鏡的巨大バルーン拡張術



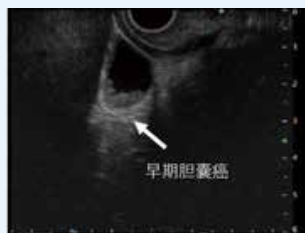
摘出された巨大結石

○胆嚢癌

胆嚢癌は自覚症状が乏しく発見時には進行しており、切除困難であることが多い疾患です。早期に胆嚢癌を発見するためには腹部エコーが有用であり、胆嚢癌の早期発見につとめています。腹部エコーで胆嚢腫瘍が疑われた場合は、CTや超音波内視鏡で精密検査を行っています。切除可能な胆嚢癌は消化器外科で切除し、切除不能胆嚢癌に対しては化学療法を行っています。



早期胆嚢癌（腹部超音波）



早期胆嚢癌（超音波内視鏡）

○胆管癌

胆管癌は肝胆道系酵素の上昇や、閉塞性黄疸で発見されることが多い疾患です。閉塞性黄疸で発見された場合は、内視鏡的に胆道ドレナージを行い、胆管の細胞診や生検検査を行います。胆管癌は肝門部領域胆管癌と遠位胆管癌にわけられ、切除するためには肝門部領域胆管癌では肝臓も、遠位胆管癌では膵臓や十二指腸なども合併切除が必要となることが多いため、切除前のCTやMRCP、超音波内視鏡による腫瘍進展範囲診断を行います。切除不能胆管癌に対しては、胆管内にチューブステントや金属ステントを留置し、化学療法を行っています。



肝門部領域胆管癌（CT）



内視鏡的金属ステント留置術

○急性膵炎

急性膵炎はアルコールや胆石などが原因で起こる膵臓の急性炎症で、腹痛、嘔吐などの症状で発症します。上腹部痛に加え、血液検査で膵酵素の上昇、腹部超音波やCTで膵腫大や膵臓周囲に炎症の波及がみられれば急性膵炎と診断します。急性膵炎診療ガイドライン2015にそって重症度分類を行い、治療を行っています。治療は絶食、大量輸液、蛋白分解酵素阻害薬を投与しますが、重症急性膵炎では呼吸不全や腎不全を合併することもあり、持続的血液透析濾過や人工呼吸器管理となる場合もあります。また、合併症として被包化膵壊死を起こすこともあり、感染コントロールが困難な場合は超音波内視鏡下の膵嚢胞ドレナージ術も行っています。



急性膵炎（CT）



被包化膵壊死（治療前CT）

超音波内視鏡下膵嚢胞
ドレナージ術

被包化膵壊死（治療後）

○慢性膵炎

慢性膵炎は膵臓の組織がゆっくりと破壊されて生じる疾患で、反復する上腹部痛、背部痛、消

化不良、下痢、体重減少などの症状がみられます。慢性膵炎の原因の半数以上がアルコール性で、他に特発性、遺伝性、家族性もみられます。膵全体にびまん性の石灰化を認めることや、膵管内に結石を認めることで診断できます。慢性膵炎は進行性で非可逆性の経過をたどるため、診断早期からアルコールなどの原因の除去、食事療法などが重要です。近年は、早期慢性膵炎という概念が定義され、超音波内視鏡による画像所見が診断項目となっており、早期診断することで早めに治療介入し進行を食い止めることができます。



慢性膵炎

○膵癌

膵癌は腹痛、背部痛、黄疸、体重減少などで発見され、小さい腫瘍で発見されても周囲の血管や神経叢に浸潤しやすく、切除が困難であることが多い予後不良な疾患です。膵管内乳頭粘液性腫瘍など膵癌のリスクが高い方には、超音波内視鏡で膵臓全体をくまなく観察するようにし、診断に苦慮した症例には超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診を行い確定診断しています。切除不能膵癌に対しては積極的に化学療法も行っています。治療効果を画像検査や腫瘍マーカーで判断し、副作用が強い場合には早めに薬剤を変更するなどして無理のない治療を心掛けています。また疼痛に対してはペインクリニックや緩和ケア看護師と連携をとり、しっかりとした疼痛コントロールを行っています。



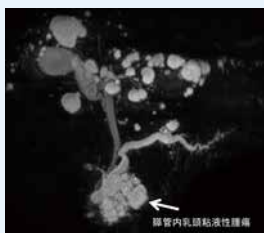
腹腔動脈へ浸潤した切除不能膵癌



超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診

○膵管内乳頭粘液性腫瘍

膵管内乳頭粘液性腫瘍は膵管内に粘液産生性腫瘍が乳頭状に増殖する疾患であり、膵管の拡張がみられ、多房性の嚢胞状構造を呈します。内部に結節性病変が出現し癌化することもあるため、定期的な経過観察が必要です。また、膵管内乳頭粘液性腫瘍とは離れた膵管に浸潤型膵管癌を認めることもあり、膵全体の経過観察が必要です。嚢胞内に腫瘍性病変を認めた場合は、内視鏡的逆行性膵管造影を行い、膵液細胞診で悪性腫瘍の合併の精密検査を行います。



膵管内乳頭粘液性腫瘍 (MRCP)



膵管内乳頭粘液性腫瘍 (超音波内視鏡)

内視鏡センター

医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	中河原 浩史 ・内視鏡センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・医学博士 ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本消化器病学会指導医・専門医・評議員 ・日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・学術評議員 ・日本超音波医学会認定指導医・専門医・代議員 ・日本胆道学会認定指導医 ・日本肝臓学会指導医・専門医 ・日本消化管学会胃腸科指導医・専門医 ・日本消化器がん検診学会指導医・総合認定医・代議員 ・日本がん治療認定医機構認定医
	窪田 賢輔 ・非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立大学附属病院内視鏡センター教授 ・日本消化器病学会指導医・専門医・評議員 ・日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・評議員 ・日本胆道学会指導医・評議員 ・日本脾臓学会指導医・評議員
	小松 まゆみ ・非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本消化器病学会専門医 ・日本消化器内視鏡学会専門医
	堀井 敏喜 ・非常勤医師	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医 ・日本消化器病学会専門医 ・日本消化器内視鏡学会専門医 ・日本消化管学会胃腸科専門医
	中河原 亜希子 ・非常勤医師（水曜日午後）	

施設認定

- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医指導施設
- ・日本胆道学会認定指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本消化器がん検診学会認定指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設



■ 診療内容・特色

当院内視鏡センターは日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本超音波医学会指導施設に加えて日本消化器がん検診学会や日本消化管学会の指導施設であり、日本消化器内視鏡学会指導医、専門医を中心に検診から外来検査、治療内視鏡と幅広く手掛けています。治療方針は、週1回行う内視鏡センターカンファレンスで決定することで、最善かつ安全な治療を提供しています。また、専門的知識が豊富な消化器内視鏡技師も多数在籍し、消化器内視鏡検査、治療の介助も行うことで専門性に特化したセンターを実現しています。

■ 主な検査・治療・実績

2023年度は、上部消化管内視鏡は年間約3500件、大腸内視鏡は年間約1000件行っています。嘔吐反射が少ない経鼻細径内視鏡や、鎮静下の内視鏡も導入しており、できる限り負担の少ない内視鏡を心掛けています。早期癌などに対する内視鏡的粘膜下層剥離術は食道・胃・大腸に対して年間約30件施行し、大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術は外来および入院で行っており、年間約350件施行しています。最近が増えている小腸疾患に対しては、侵襲の少ないカプセル内視鏡を行い、必要に応じてバルーン小腸内視鏡で精査、治療を行うことも可能です。

消化管出血は薬剤の進歩により減少はしていますが、現在も致命的疾患であることには変わりはありません。当センターでは、吐下血に対しては内視鏡的消化管止血術を緊急で行える体制をとっています。肝硬変などに伴う食道・胃静脈瘤破裂に対しては、緊急での内視鏡的静脈瘤結紮術で対応し、待機的に内視鏡的静脈瘤硬化療法やバルーン下逆行性経静脈的塞栓術を行っています。また、高齢化社会に伴う入れ歯や薬剤包装の誤飲に対しては、内視鏡的異物除去も随時行っています。

膵臓や胆管の悪性腫瘍、総胆管結石に伴う閉塞性黄疸、急性胆管炎に対しては緊急の内視鏡的胆管ステント留置術も対応しています。総胆管結石に対する内視鏡的乳頭切開術、悪性胆道狭窄に対して開存期間の長い内視鏡的金属ステント留置術も積極的に行っています。内視鏡的膵胆管造影および関連処置は、2023年度は326件行っており、総胆管結石の治療困難症例に対しては胆道鏡を用いた電気水圧衝撃波胆管結石破碎術も可能です。悪性腫瘍に伴う閉塞性黄疸には、チューブステントや金属ステントの複数本留置も行っています。術後胃症例に対しては、小腸バルーン内視鏡を用いたドレナージ術も行うことができます。

さらに、当センターでは、予後不良である膵癌の早期発見のため、超音波内視鏡による膵癌発見にも力を入れており、年間約570件の超音波内視鏡検査を施行しています。超音波内視鏡などで発見された腫瘍に対しては、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診を行うことで確定診断しています。超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診は胆膵領域だけでなく、縦隔や腹腔内腫瘍、消化管粘膜下腫瘍に対しても施行しています。閉塞性黄疸や胆道炎に対しては、経皮経肝胆道ドレナージ術に加えて、超音波内視鏡下のドレナージ術やステント留置術も行っています。

腎臓・人工透析内科

「腎臓・人工透析内科」とは、腎臓の中でおきている病態、さらにはそこから全身にかかる病気を治療する「腎臓内科」と血液浄化療法を駆使して全身状態を良くしていく治療を行う「人工腎臓内科」の2つを診療している診療科です。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	宇田 晋 ・腎臓・人工透析内科診療部長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医・総合内科専門医 ・日本腎臓学会専門医・指導医 ・日本透析医学会専門医・指導医
	安藤 宙和 ・医員	
	柏木 愛 ・医員	
	細川 緑 ・非常勤医師（火曜日診察）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医・認定医 ・日本透析医学会専門医 ・日本腎臓学会専門医 ・日本リウマチ学会専門医
	塚本 俊一郎 ・非常勤医師（火曜日診察）	

■ 外来診療担当医表

月	火	水	木	金
宇田 晋	塚本 俊一郎	安藤 宙和	宇田 晋	柏木 愛
	細川 緑	宇田 晋 (午後・不定期)		

病院概要

患者紹介・逆紹介について

各診療科のご案内

地域ケアサービスセンターのご紹介

訪問看護ステーションのご案内

健康管理センター

(巻末) 帳票綴り

■ 診療内容・特色

腎臓内科では以下に示す症状や疾患に関し、日々外来および入院診療を行っております。該当する患者さんがいらっしゃいましたらご紹介いただけますと幸いです。

- ① 蛋白尿、血尿などの尿異常
- ② 腎機能低下および急速に進行する腎機能障害
- ③ 電解質異常
- ④ 末期腎不全に対する治療

①, ②:

近頃「慢性腎臓病(CKD)」という疾患概念が提唱され多くの医療者にも知られるところとなっています。現在多くの薬剤が開発された結果、CKDは早期発見をすることによりその後の腎機能低下速度を減少させることができるようになりつつあります。一方、CKD患者さんは腎機能低下だけが問題ではなく「心血管病」と言われる動脈硬化病変を合併することが多くそちらにも気を配る必要があります。

当院では非侵襲的な心血管系の諸検査を行うこともできますので患者さんをご紹介いただいた場合は積極的にそれらの検査も併せてさせて実行しています。結果によりさらに専門的な診療が必要と判断した場合は当院循環器内科や脳神経外科への診療依頼も同時に行います。

CKD患者さんの「かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準」として日本腎臓学会から(表)に示すような提案があります。

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病性腎臓病	尿アルブミン定量(mg/日) 尿アルブミン/Cr比(mg/gCr)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		30未満	30~299	300以上
高血圧性腎硬化症 高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 その他	尿蛋白定量(g/日) 尿蛋白/Cr比(g/gCr)	正常 (-)	軽度蛋白尿 (±)	高度蛋白尿 (+~)
		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL分/ 1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90	血尿+なら紹介、蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G2 正常または軽度低下	60~89	血尿+なら紹介、蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G3a 軽度~中等度低下	45~59	40歳未満は紹介、40歳以上は生活指導・診療継続	紹介
	G3b 中等度~高度低下	30~44	紹介	紹介
	G4 高度低下	15~29	紹介	紹介
	G5 高度低下~末期腎不全	<15	紹介	紹介

上記以外に、3か月以内に30%以上の腎機能の悪化を認める場合は速やかに紹介。
上記基準ならびに地域の状況等を考慮し、かかりつけ医が紹介を判断し、かかりつけ医と腎臓専門医・専門医療機関で逆紹介や併診等の受診形態を検討する。

腎臓専門医・専門医療機関への紹介目的(原疾患を問わない)

- 1) 血尿、蛋白尿、腎機能低下の原因精査
- 2) 進展抑制目的の治療強化(治療抵抗性の蛋白尿(顕性アルブミン尿)、腎機能低下、高血圧に対する治療の見直し、二次性高血圧の鑑別など)
- 3) 保存期腎不全の管理、腎代替療法の導入

原疾患に糖尿病がある場合

- 1) 腎臓内科医・専門医療機関の紹介基準に当てはまる場合で、原疾患に糖尿病がある場合にはさらに糖尿病専門医・専門医療機関への紹介を考慮する。
 - 2) それ以外でも以下の場合には糖尿病専門医・専門医療機関への紹介を考慮する。
 - ① 糖尿病治療方針の決定に専門的知識(3か月以上の治療でもHbA1cの目標値に達しない、薬剤選択、食事運動療法指導など)を要する場合
 - ② 糖尿病合併症(網膜症、神経障害、冠動脈疾患、脳血管疾患、末梢動脈疾患など)発症のハイリスク患者(血糖・血圧・脂質・体重等の難治例)である場合
 - ③ 上記糖尿病合併症を発症している場合
- なお、詳細は「糖尿病治療ガイド」を参照のこと

(作成：日本腎臓学会、監修：日本医師会)

(日本腎臓学会 エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023)

- **縦軸**は「原疾患」と「腎機能(GFR (糸球体濾過量))」、**横軸**は「尿蛋白量」で分けされたヒートマップで示されています。
- **縦軸**のGFR区分はeGFR (年齢、性、血清クレアチニン濃度を使用した日本人独自の推算GFRを示します) で下に行けば行くほど腎機能は低下します。
- **横軸**は尿蛋白量 (=尿蛋白/Cr比=尿中蛋白定量(mg/dL)/尿中クレアチニン濃度(mg/dL)で示された数値)、もしくは原疾患が糖尿病であった場合は尿中アルブミン/Cr比が用いられます。黄色と赤色に示された部分に相当する患者さんを是非ご紹介下さい。なお黄色で示されたところは条件付きの紹介基準となっておりますのでご注意ください。
もちろんこの紹介基準に該当しない患者さんでも「急速に腎機能が低下」している場合は速やかにご紹介下さい。特に高齢者の方ではANCA (抗好中球細胞質抗体) 関連腎炎による急速進行性腎炎症候群(RPGN)である場合があります、可及的な治療開始が望まれます。

③：

主に血清ナトリウム、カリウム、カルシウム濃度異常をきたしている場合それぞれに応じた原因究明と適切な治療が必要となります。最近では骨粗鬆症治療薬 (ビタミンD製剤) に伴う高カルシウム血症発症とそれに引き続く急性腎障害発症例も多く見受けられます。高齢者は腎機能が低下していることが多いため、同薬剤を投与する際には注意が必要です。まずは採血いただいて高カルシウム血症を来してしましたら可及的に薬剤を中止しご紹介下さい。

④：

末期腎不全治療の腎代替療法には「腎移植」、「血液透析」、「腹膜透析」の三つがあります。当院では原則「血液透析」導入後もそのまま当院での維持透析に移行いただいておりますが、患者さんの送迎を基本的に行っていないため、送迎が必要な場合はそれが可能な透析クリニックに紹介させていただいております。このような場合もいざ合併症が生じた場合は当院に入院いただき合併症治療を行います。

腎代替療法がそろそろ必要、と考えられた時期に上記の三つの治療法を提示し、それらの長所、短所に関し患者さんに説明をしています。患者さんが「血液透析」以外の「腎移植」、「腹膜透析」を希望された場合はそれらの治療が可能な医療施設に紹介させていただいております。

■紹介時のお願い

かかりつけ医の先生方と医療上の定期的なキャッチボールができれば嬉しく思います。今後とも宜しく願い申し上げます。

呼吸器内科

代表的な呼吸器疾患である慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息・肺癌などを中心に診断・治療を行います。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	森田 博之 ・ 医長	・ 日本呼吸器学会 専門医
	井戸田 泰典 ・ 医員	
	田中 良磨 ・ 非常勤医師（木曜日診察）	

■ 外来診療担当医表

月	火	水	木	金
森田 博之	森田 博之	森田 博之	田中 良磨	井戸田 泰典
井戸田 泰典				

■ 主な検査・治療

○外来で可能なもの

胸部レントゲン 胸部CT 血液ガス 呼吸機能検査 喀痰（抗酸菌、一般細菌塗抹）

胸腔穿刺 気管支鏡 睡眠時無呼吸スクリーニング検査 外来化学療法

○入院が必要なもの

気管支鏡（侵襲の強い場合） 睡眠時無呼吸症候群確定検査（PSG） 酸素療法導入（HOT）

化学療法導入 胸腔ドレナージ

■ 診療内容・特色

代表的な呼吸器疾患である呼吸器感染症（肺炎、胸膜炎、肺結核、非結核性抗酸菌症）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、気胸、間質性肺炎、肺癌、睡眠時無呼吸症候群などを中心に診断・治療を行っております。急性期から慢性期、終末期まで、患者様の病態や社会的背景などの状況も鑑みて最適な医療を行えるよう努めております。

発熱を伴う咳嗽・痰、長引く咳嗽、労作時呼吸困難、血痰、SpO₂低下等の呼吸器症状、健康診断などのレントゲン異常などがございましたら、当科受診をご検討いただければと存じます。

また、当院は呼吸器外科が不在であるため、初期肺癌などの手術が必要な症例は対応いただける病院へのご紹介をさせていただいております。

■ 紹介時のお願い

入院が必要な症例については、事前にご連絡をお願いします。

■ 所属学会

日本内科学会


日本呼吸器学会

循環器内科

循環器内科では正確な診断と、適切で最新の治療を皆様に提供できるように心がけて診療にあたっています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	大岩 功治 ・副院長 ・内科部長 ・救急科部長 ・地域ケアサービスセンター長	<ul style="list-style-type: none"> ・医学博士 ・日本大学医学部 臨床教授 ・日本内科学会認定医 ・日本内科学会教育施設指導医（教育責任者） ・日本循環器学会専門医 ・日本高血圧学会専門医 ・日本高血圧学会指導医 ・日本急性血液浄化学会指導医 ・日本心血管インターベンション治療学会施設代表専門医 認定医 ・日本医師会認定産業医 ・臨床研修指導医（プログラム責任者）
	古屋 真吾 ・循環器内科部長 ・内科主任部長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学医学部 兼任講師 ・日本内科学会認定医 ・日本循環器学会専門医 ・日本心血管インターベンション治療学会専門医 認定医 ・臨床研修指導医
	八幡 貴治 ・血管造影室部長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医 ・日本内科学会総合内科専門医 ・日本循環器学会専門医 ・日本透析医学会専門医 ・日本内科学会研修指導医 ・難病指定医 ・日本心臓リハビリテーション学会指導士 ・日本心血管インターベンション治療学会認定医
	小山 裕 ・医員	<ul style="list-style-type: none"> ・医学博士 ・日本内科学会認定医 ・日本循環器学会専門医

	医師名・役職	認定医・専門医
	山田 将大 ・医員	
	大角 彰仁 ・非常勤医師（木曜日診察）	・医学博士 ・日本内科学会認定医 ・日本循環器学会専門医
	櫻井 由美 ・健康管理センター センター部長	・医学博士 ・日本内科学会認定医 ・日本循環器学会専門医
	神田 弘太郎 木曜日診察	
	谷江 智輝 火曜日診察	

■ 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
午前～午後	古屋 真吾	古屋 真吾	八幡 貴治	神田 弘太郎	大岩 功治
	小山 裕	谷江 智輝	山田 将大	大角 彰仁	八幡 貴治
外来心臓 リハビリテーション			古屋 真吾		
ペースメーカー 外来		古屋 真吾	八幡 貴治		

■ 施設認定

- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設
- ・日本心臓リハビリテーション認定施設（基準1）
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

■ 診療科の目標

私たちの診療科では正確な診断と、適切で最新の治療を皆様に提供できるように心掛けて診療にあたっています。十分な科学的な裏付けがなされている（エビデンス：evidence-based medicine）治療と、患者様の信頼を得られるよう、十分なインフォームド・コンセントを行うように心掛けています。

■ 診療内容・特色

当院循環器科は日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会指定の研修施設であり、横浜市の心疾患救急指定病院として、急性冠症候群(心筋梗塞、狭心症)のカテーテル治療を24時間365日常時施行できる救急体制を敷いています。また、近年増加している生活習慣病の高血圧や脂質異常症、さらには高齢者や糖尿病などに多い、閉塞性動脈硬化症（ASO）の診断や治療を専門的に行っています。

循環器一般疾患の診療以外としては、①慢性腎臓病で造影困難な例では、非造影での冠動脈MRIや下肢MRIでスクリーニングし、下肢血管内治療では炭酸ガスによる非造影剤治療も可能です。②腎臓内科・透析チームと連携し、複雑・石灰化病変の多い透析患者さんの虚血性心疾患や下肢閉塞性動脈硬化症、心不全、下肢壊疽症例を積極的に治療しております。③心臓リハビリテーションと多職種介入による心不全チーム医療で心不全再発予防を行っています。心臓リハビリテーションは、認定施設となっており、入院と外来心臓リハビリテーションを行っておりますので、ご希望の方は一度循環器科の外来を受診していただき、その後リハビリテーションのプログラムを専門の指導士とともに計画させていただきます。

■ 主な対象疾患・治療

○虚血性心疾患

胸痛を自覚する疾患はいろいろありますが、不安定狭心症や急性心筋梗塞の胸痛は今までに感じたことがないような（命が不安になるほど強い痛みなど）胸痛とよくいわれます。ある日突然襲ってくる胸痛発作に対処するため私たち循環器科の医師は24時間体制で救急対応しています。それは心筋梗塞の治療タイミングが発症12時間以内（それも早ければ早いほど良い）なら治療予後が改善することが証明されているからです。この病気の治療にはカテーテルという特殊な管を使用する治療による手技が確立されています。この治療は手首や肘の血管から心臓まで管を通して血管造影や血管内治療を行う方法です。当院では、365日、24時間体制で救急対応できるように常に準備しています。

心臓カテーテル検査



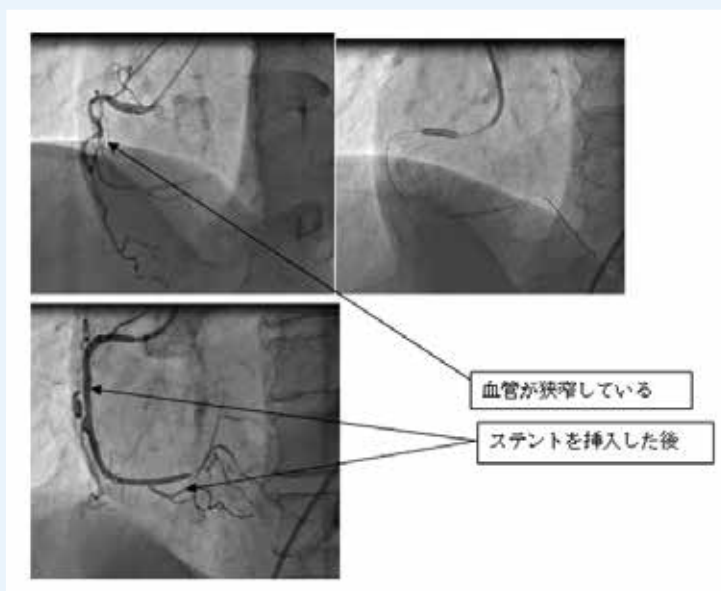
カテーテル検査と治療
(当院で行った治療ワークショップの一場面)

心臓カテーテル検査とは、患者様の手首や鼠径部からカテーテルという細い管を挿入し、心臓を栄養する血管「冠状動脈」や左心室を造影したり、心臓の圧力を測定したりする検査のことです。当院では基本的に手首の動脈から施行しています（橈骨動脈）。検査は局所麻酔で行い、検査時間は約30分から50分程度で施行内容や血管の走行によって時間が異なってきます。検査後は止血バンドで手首の出血を止めます。当院では検査の場合、原則として一泊以上の入院をさせていただいております。これはカテーテル挿入部の出血など、不測の事態に備えるためです。当院は日本心血管インターベンション治療学会の施設認定を所得し、専門医、指導医をはじめ、学会認定の臨床工学技師2名と認定エキスパート看護師1名を配属して検査や治療を行っております。

PCI（経皮的冠動脈形成術）

カテーテルを利用した治療で血管内治療のことを指します。これは狭心症や心筋梗塞のために、狭窄・閉塞した冠状動脈をバルーンという風船や、ステントという金属コイルで拡張することで血管を修復する治療のことです。薬剤溶出ステントといわれるステント内面などに薬剤を塗布されているものを使用し、標的病変に挿入します。これにより再狭窄（しばらくすると再び血管が狭窄してしまう状態）を5%以下まで軽減できるようになりました。診断検査と同様に治療に際しても主に手首の血管（橈骨動脈）から施行していますので、治療後も安静が少なく済みます。治療に際し、血管内超音波法（IVUS）や冠血流予備量比（FFR）を使用して、治療する血管の性状、サイズ、さらには治療適応があるかどうか、などを計測して正確、適正に治療を行っております。

当院は2020年より高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル（ロータブレーター）使用を開始しており、高度に石灰化した冠動脈の病変に使用しております。先端にマイクロダイヤモンドが埋め込まれたBurrを1分間に14～19万の高速で回転させて血管内の硬化病変を削ります。ただし硬い部分のみを削り柔らかい部分を削らない特性があるので、血管壁には損傷を与えないと考えられており、安全に使用することを心掛けております。



心筋梗塞のステント治療の実際

○不整脈

MRI対応ペースメーカー

心臓の動きは一定の速度で伝わる電気刺激（刺激伝導系）によって規則正しい収縮が生じています。



しかし、その規則正しいリズムが不規則になったり、電気刺激の経路に障害が生じて極端に脈が早くなったり、遅くなったりすることなどを不整脈と総称しています。不整脈のすべてを治療する必要はありませんが、適応があるものを当院では種々の検査から診断を行い、薬物治療などを行っています。最近、心房細動という不整脈の治療で、新しい抗凝固剤（血の塊を作らないようにして脳梗塞の発症を防ぎます）を使った治療が主流となってきました。当院も積極的に治療を行っていますので、外来でご相談ください。また、特殊な不整脈の治療（特に脈拍が異常に遅くなったり、止まったりする病気）では、ペースメーカを植え込む手術も行います。

ペースメーカ手術

特殊な不整脈の治療（特に脈拍が異常に遅くなったり、止まったりする病気）では、ペースメーカの挿入が必要なことがあります。緊急の場合は一時的にペースメーカカテーテルを挿入し治療します。また、永久的に必要な時は体内埋め込み式のペースメーカを挿入します。挿入する手術は、多くの場合左の鎖骨下に局所麻酔で埋め込み手術を行います。ペースメーカの機械は500円硬貨よりやや大きめで、磁気に弱くMRI検査ができない欠点がありましたが、最近はMRI機器対応のペースメーカも発売され、当院ではMRI対応ペースメーカの埋め込みを通常行っています。

植え込み型心臓モニター

失神の原因が不整脈や自律神経系の異常に可能性がある場合有効な機器です。サイズは小指程度の大きさの器具を皮膚直下に植え込み、心臓を24時間モニタリングする装置になります。当院では外来にて血管外科医とともに10分程度の小手術にて植え込みます。植え込み後は下記の遠隔モニタリングを利用して心電図をモニターいたします。ご要望や適応については外来までご相談ください。



当院で使用している機器 Medtronic 社 ※遠隔モニタリング 近年植え込み式機器に対して、遠隔モニタリングが可能になりました。このシステムは、患者様のご自宅に、専用の中継機器を設置することで、ご自宅からペースメーカなどの機器情報を医療機関に送信するシステムです。ペースメーカ機器の調子や不整脈の出現などが遠隔操作にて判断できます。当院でも多くの患者様に導入いただき、活用させていただいております。植え込み式機器を入れた患者様には、ご利用のメリット・デメリットについて詳細に説明させていただきますので、お気軽にご相談ください。

○閉塞性動脈硬化症 (ASO)

最近注目されるようになった病気で、間歇性跛行という歩行中に下肢に疼痛を生じたり、足の裏や指などに潰瘍や壊疽（えそ）を起こしたりすることで発見されます。原因は足の血管が狭窄や閉塞をきたすことで起こる病気ですが、高率に心臓病を合併することが報告されており診断検

査の進歩から発見も増加しています。当施設では常時ABIやtcpO₂（経皮的酸素分圧測定機器）という足の血流を圧力や酸素濃度等で測定する機械や下肢の超音波検査で検査することが可能です。必要ならCTやMRIなどを利用した動脈造影検査で診断します。薬物療法や運動療法で効果の得られない場合や重篤な血流障害（CLI：重症下肢虚血）から下肢が壊死（えし）に陥るような場合は手術が必要です。当院はカテーテルによる治療（EVT）により積極的に血行再建術を行っております。治療後はフットケアチームによる創傷ケアを行います。当院では糖尿病や動脈硬化により、下肢に傷や潰瘍などを生じた場合は、血管外科や皮膚科および看護師による多職種でチーム医療を行っています。

PTA（EVT）末梢動脈カテーテル治療

閉塞性動脈硬化症の患者様には、カテーテルを利用して、閉塞や狭窄した下肢の動脈などを拡張する血管内治療を行っています。手術方法は、局所麻酔を行ってカテーテルを挿入しますが、挿入する場所は病変部位によって異なります。主に足の付け根、上腕部、膝付近の血管を利用してカテーテルを入れて、狭窄や閉塞した血管にバルーン拡張術やステント留置術を行っています。当院は浅大腿動脈ステントグラフト実施認定施設であり、病変によってはステントグラフト使用による治療も行っております。また石灰化が強い病変に対しては、クロッサー™ 振動式末梢血管用カテーテルシステムを使用して治療しております。このカテーテルは、先端に毎秒約2万回の振動を与えることで、血管内の石灰化した硬化病変を貫通させることができるシステムです。透析患者様に多く見られる石灰化が強い病変に効果を発揮することが期待される治療です。

当院では、膝下の血管までの治療も積極的に行っております。特に透析患者様など足指付近に血流障害による難治性潰瘍を形成してしまった方の治療も血管外科と協力して積極的に行い、術後はフットケアチームと連携して創傷治癒を目指しております。また血管内治療ができないときや効果が少ないときは、血管外科医がバイパス手術を行うこともあります。下肢の血管の治療に際しては、まず血管外科もしくは循環器科の外来を受診してください。治療適応などを判断いたします。

心臓リハビリテーションと心不全チーム医療

心臓リハビリテーションとは、自分の病気を知ることから始まり、患者様ごとのCPXを使用した運動指導、安全管理、危険因子管理、心のケアなどを総合的に行うもので、当院では2008年より外来型心臓リハビリテーション施設基準1（学会認定施設）を取得し、専門の心臓リハビリテーション指導士によって、心筋梗塞や心不全を患った患者様を中心に運動リハビリテーションを開始しました。特に患者様ごとにプログラムを作成し、退院後の運動習慣化や運動耐容能が改善した症例を多く経験しております。



心臓リハビリテーションとCPX

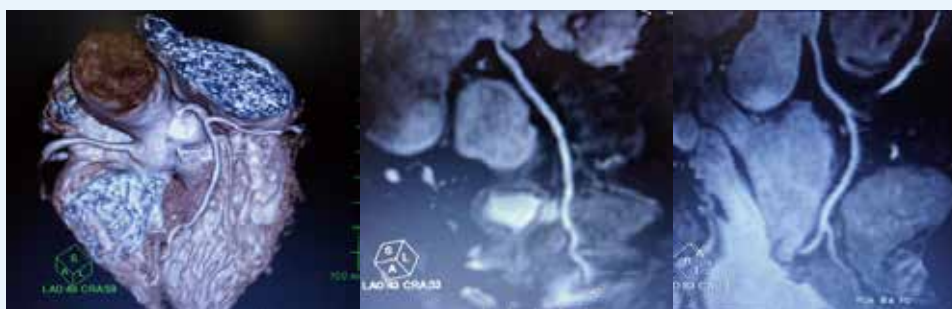
冠動脈CT



冠動脈の狭窄した部分

昨年導入した最新のCT（Canon Aquilion Prime SP）を使用し、高画質でありながら、少ない被曝と少ない造影剤容量の冠動脈造影が可能になりました。毎週火曜日と水曜日に循環器専門医が担当して行なっていますので、ご希望の方は循環器科外来までご相談ください。

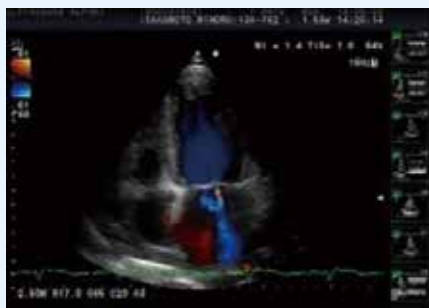
心臓MRI・冠動脈MRI



造影剤を使用せずに、冠状動脈や心臓の構造、動きを撮影することが可能です。冠状動脈MRIは、CTやカテーテル検査と異なり、造影剤を使用せずに評価が可能のため、腎臓機能が低下した患者様や健康診断で心電図に異常を認められた方の精密検査として有用です。予約は毎日できますので、ご希望の方は循環器科外来までご相談ください。

心臓超音波検査・経食道心臓超音波検査

心エコーは体表面から超音波にて心臓の機能や形態などを検査する方法です。プローブと呼ばれる機械にゼリーを塗って左胸に当てるだけで、特に人体に悪影響や痛みを生じません。当院では女性に対しては基本的に女性の専門技師が対応しておりますので、安心してお受けになれる環境を整備しております。経食道心臓超音波検査は食道に超音波のプローブを胃カメラの要領で入れて、見えにくい心臓の詳細な情報を得ることができます。

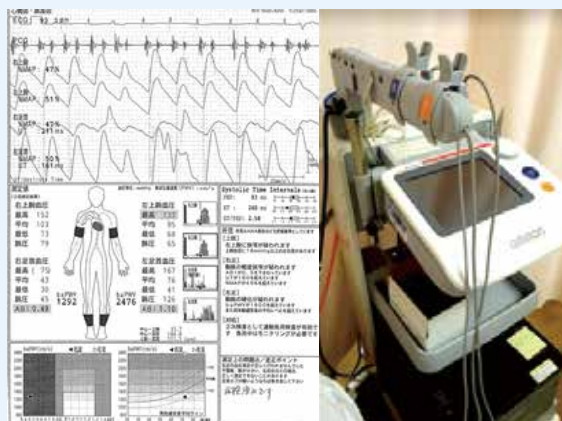


心臓弁膜症のエコー画像

脈波・TCPO2（経皮的酸素分圧測定機器）

脈波検査は、上腕と足首の血圧の比を測定することで血管の狭窄の程度が分かります。健常な成人の場合、足首血圧は上腕血圧より高いのが普通ですが、足の動脈が脂質などで詰まると、血流が悪くなります。すると、足首血圧が上腕血圧より低くなり、上腕と足首の血圧比の値が低くなります。この比率をABIと言います。0.9より低いと異常値と判断されますので、簡単に下肢の

狭窄などが判定できます。当院では予約無しで検査が可能です。さらに心臓から押し出された血液により生じた拍動が動脈を通じて手や足に届くまでの速度も測定できます。baPWVという数値で、動脈が硬いほど高い数値となります。



脈波検査結果と機器 TCPO2（経皮的酸素分圧測定機器）は、組織への酸素供給量を非侵襲的な痛みのない方法で測定し、重症下肢虚血の検知、創傷治療の最適化などを判断する診断検査です。2016年より保険適応となり当院では下肢に創傷がある患者様に使用しております。



TCPO2はセンサーを皮膚に貼り付けるだけで測定できます

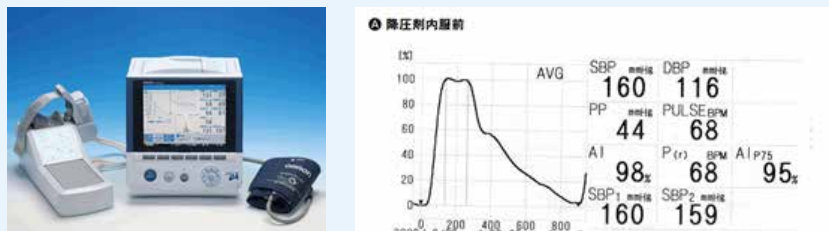
トレッドミル負荷試験・ホルター心電図・24時間行動下血圧計（ABPM）・AI（中心血圧・Augmentation Index）



トレッドミル負荷試験の機械

トレッドミル負荷試験は、ルームランナーのような機械に乗って運動を行うことで心電図や血圧の変動を検査し、狭心症などの診断を行います。循環器医師と専門技師が午後予約制にて行なっております。ホルター心電図は短時間では判明しない心電図の変化を、小型機械と胸にはったシール型の電極だけで、ご自宅にて24時間分の心電図を記録する方法です。不整脈の診断に有効で、当院では超小型の防水型携帯機器を使用しておりますが、当日の入浴だけはご遠慮をお願いしております。高血圧の方には、治療の際に重要な夜間や早朝の血圧測定が行える24時間血圧

(ABPM) を行っています。ご希望の方は、循環器科外来までご相談ください。AI（中心血圧）は動脈硬化などで動脈の“しなやかさ”が低下します。それにより動脈波伝播速度が上昇することを特殊な装置で計測した数値のことです。体の中心の動脈硬化を間接的に判定しますので、高血圧などではAIが高値を示します。



中心血圧測定機器 オムロン血圧脈波検査装置

M E M O

病院概要

患者紹介・逆紹介について

各診療科のご案内

地域ケアサービスセンターのご紹介

訪問看護ステーションのご案内

健康管理センター

(巻末) 帳票綴り

外科（消化器、乳腺、形成）

消化器外科、乳腺外科、形成外科についてご紹介します。

■ 医師紹介

	医師名・役職	専門分野	認定医・専門医
	三松 謙司 ・院長補佐 ・外科主任部長 ・消化器外科部長 ・手術部医長 ・NST部長 日本大学医学部 (平成7年卒)	・消化管外科 ・一般外科 ・内視鏡外科 ・栄養療法	・医学博士 ・日本外科学会 認定医・専門医・指導医 ・日本消化器外科学会 専門医・指導医 ・日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ・日本内視鏡外科学会 技術認定医・評議員 ・日本食道学会 食道科認定医 ・日本臨床栄養代謝学会 認定医・指導医・評議員 ・緩和ケア研修修了 ・嚥下機能評価研修会修了 ・看護師特定行為研修指導者講習会修了
	吹野 信忠 ・医長 日本大学医学部 (平成18年卒)	・肝胆膵外科 ・消化管外科 ・一般外科	・医学博士 ・日本外科学会 専門医 ・日本消化器外科学会 専門医 ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ・TNT講習修了 ・緩和ケア研修修了 ・がんリハビリテーション研修修了 ・嚥下機能評価研修会修了
	小笠原 康夫 ・医長	・消化管外科 ・一般外科 ・内視鏡外科	・日本外科学会 専門医 ・日本消化器外科学会 専門医 ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ・日本消化器病学会 専門医 ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医 ・日本消化管学会胃腸科 専門医・指導医 ・日本大腸肛門病学会 専門医 ・日本ヘリコバクター学会 H.Pylori感染症認定医 ・日本旅行医学会 認定医 ・TNT講習修了 ・緩和ケア研修修了 ・嚥下機能評価研修会修了

	医師名・役職	専門分野	認定医・専門医
	橋本 大和 ・ 医員 日本大学医学部 (令和3年卒)		
	久保井 洋一 ・ 非常勤医師 日本大学医学部 (平成3年卒)	・ 乳腺外科	・ 医学博士 ・ 日本外科学会 認定医・専門医・指導医 ・ 日本乳癌学会 認定医・専門医 ・ マンモグラフィ読影認定医 ・ 日本消化器外科学会 認定医 ・ 緩和ケア研修修了
	成井 一隆 ・ 非常勤医師 横浜市立大学医学部 (平成12年卒)	・ 乳腺外科	・ 医学博士 ・ 日本外科学会 認定医・専門医・指導医 ・ 日本乳癌学会 認定医・専門医
	玉野井 慶彦 ・ 非常勤医師 広島大学医学部 (平成25年卒)	・ 形成外科	・ 日本形成外科学会形成外科専門医
	田中 宗伸 ・ 非常勤医師	・ 消化器外科 ・ 一般外科	・ 日本外科学会 専門医
	駒橋 充 ・ 非常勤医師	・ 一般外科	

■ 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
消化器外科	田中 宗伸	吹野 信忠	三松 謙司	吹野 信忠	三松 謙司
	小笠原 康夫			駒橋 充	小笠原 康夫
乳腺外来		久保井 洋一 (午前)	久保井 洋一 (午前・午後)	成井 一隆 (午後)	
形成外科 (皮膚科外来)				玉野井 慶彦	

■ 診療のモットー

患者さん目線のやさしい外科治療

■ 主な治療

- 食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆膵癌、乳癌に対する手術、化学療法、栄養療法を行っています。
- 胆石症・鼠径ヘルニア・虫垂炎・肛門疾患などの手術を行っています。
- 胃癌、大腸癌、胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎などに腹腔鏡手術を行っています。

■ 診療内容・特色

- あらゆる消化器・一般外科領域の疾患の治療を行っています。
- エビデンスに基づいた治療はもとより、患者さん個々の病態に配慮した治療を行っています。
- 腹腔鏡手術を積極的に行う一方で、高度進行癌には拡大手術、化学療法を行っています。
- 患者さんが心も身体も早期に回復するために、リハビリと栄養管理を積極的に行っています。
- 外来化学療法を行っています。**専属の看護師・薬剤師が常駐している化学療法室があります。**
- 消化器内科、各職種医療チームと連携し治療方針を決定しています。
- 患者さんのQOLを考慮した緩和医療を緩和ケアチームと協力して行っています。
- 地域包括ケア病棟で、治療後の在宅復帰に向けた支援を行っています。

■ 実績

● 外来化学療法

2023年1月～2023年12月：414件

● 手術

2023年1月～2023年12月：261例（鏡視下手術 135例）

疾患	症例数（鏡視下手術数）
胃・十二指腸・小腸	12例（2例）
結腸・直腸	58例（34例）
肛門	5例
虫垂	30例（30例）
腸閉塞・腹膜炎	16例（6例）
肝・胆・膵	9例
胆道結石	42例（40例）
ヘルニア	48例（23例）
乳腺	4例
その他	37例
合計	261例（135例）

■ 紹介時のお願い

消化器、一般外科領域の外科治療のご紹介は毎日承ります。

消化器内科と連携しているため、内科疾患と判断が迷う場合にもご紹介頂いて結構です。

ヘルニア治療に関しては、横浜みなと外科クリニックと連携しています。

乳腺外科診療は、横浜市立大学市民総合医療センター乳腺外科と連携し、火曜日、水曜日の午前と木曜日の午後に専門医が行っています。

形成外科診療は、横浜市立大学市民総合医療センター形成外科と連携し、木曜日に行っています。

血管外科


下肢静脈瘤に対しての血管内焼灼術（高周波焼灼術、塞栓術）、静脈瘤切除術を行っております。特に令和4年度から最新の低侵襲手術である血管内塞栓術も導入しました。

下肢動脈閉塞症の診断や治療を循環器内科や血管診断技師などと連携して治療を行い、重症な下肢壊疽の回避や下肢切断の救肢を行います。

フットケア外来を開設しております。

腎・血液浄化療法科と連携して内シャント造設術も行っております。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	柏崎 暁 ・血管外科部長	・医学博士 ・日本外科学会 認定医 ・日本外科学会 外科専門医 ・日本胸部外科学会 専門医 ・下肢静脈瘤血管内焼灼術 実施医認定

■ 外来診療担当医表

月	火	水	木	金
	柏崎 暁	柏崎 暁		柏崎 暁

■ 診療内容・特色

血管外科では下肢静脈瘤、深部静脈血栓症などの静脈性疾患や下肢の閉塞性動脈硬化症、慢性動脈閉塞による虚血性疾患、腹部大動脈瘤などの動脈性疾患に対しての血管治療を積極的に行っております。当科の特色として、下肢動脈閉塞症の診断や治療を循環器内科や血管診断技師などと連携して治療を行い、重症な下肢壊疽の回避や下肢切断の救肢を行います。

当科では腎・血液浄化療法科と連携して内シャント造設術も行っております。

横浜中央病院では「フットケア専門外来」を開設しております。閉塞性動脈硬化症や重症虚血肢の要因は、糖尿病・高血圧・喫煙・加齢といわれており、近年その患者数が増加傾向にあるのが現状です。足病変は、糖尿病神経障害や網膜症などの視力障害から、傷があっても気が付きにくく発見がおくってしまうこと、血流障害により潰瘍になってしまうことで、傷が治りづらく治療が遅れてしまうことが重症化し、切断に至る大きな要因といわれています。当院ではチーム医療体制を採用して下肢局所疾患の予防、診断、治療（薬物、血管内治療、バイパス手術、局所皮膚処置など）を一人の患者に対して、それぞれの専門家（血管外科・循環器内科・皮膚科・整形外科・腎臓内科、専任看護師、検査技師）がお互いに協力し集学的治療を行っていきます。

■ 主な対象疾患・治療

下肢静脈瘤、深部静脈血栓症

下肢静脈瘤は静脈弁がうまく働かなくなる、あるいは壊れることで発症し、下肢静脈がこぶのように異常に膨らんだ状態をいいます。根本的な治療のためには手術が不可欠です。自覚症状はない場合が多いですが、下肢がむくんだり、冷感、痛み、かゆみ、足がつるなどの症状が出現したりすることもあります。悪化して下肢に皮膚炎や湿疹ができたり、皮膚が硬くなって色素沈着を生じたり、ひどいと潰瘍を形成したりします。このような状態を下肢静脈うっ滞症候群といい何らかの治療が必要となります。一般的な外科治療はストリッピング手術でしたが、最近ではレーザーや高周波を用いたカテーテルによる血管内焼灼術が主流となってきております。当院ではストリッピング手術、高周波焼灼カテーテルによる血管内手術にも対応しております。血管内焼灼術治療の場合、出血が少ないなど身体的な負担が少なく、再発率も低いことが大きなメリットとなっており、傷が小さくてすみ、局所麻酔と軽い全身麻酔だけで受けられるため麻酔リスクも低くなるという特徴があります。

下肢静脈瘤は①夕方にかけてふくらはぎがむくむ ②就寝時にも足がよくつる ③足のかゆみが出る ④足に茶色い色素沈着ができた 等の症状がある場合は要注意です。

立ち仕事や腹圧がかかるような妊娠や便秘も原因となることがあります。

血管内焼灼術	皮膚に開けた小さな開口部からカテーテルを対象静脈に挿入してカテーテルから放出されるエネルギーにより静脈を閉塞させてしまう治療です。体にはわずかな侵襲で治療ができます。 【ラジオ波血管内焼灼術】 レーザーの代わりにラジオ波（高周波）を用いて静脈壁を焼灼する方法です。周囲組織がダメージを受けることなく、静脈壁をよりばらつきなく均一に焼灼できます。
血管内塞栓術	シアノアクリレート系接着材による血管内治療で、局所麻酔下での手術が可能です。
ストリッピング手術	鼠径部や足首などに小さな切開を行い、原因の静脈を除去し、静脈瘤の切除や結紮術を行うことです。

深部静脈血栓症は深部静脈という下肢の中心にある静脈に血栓（血のかたまり）ができる病気です。重症の場合は入院治療をするエコノミー症候群の原因でもある病気です。診断のため血管エコーや静脈造影などを行います。治療としては血栓を溶解する薬や再発を予防する薬を投与します。発症早期の場合はカテーテルを使用して血栓を溶解する治療を行う場合もあります。

閉塞性動脈硬化症

最近注目されるようになった疾患で、間歇性跛行という歩行中に下肢に疼痛が生じることで発見されることが多い病気です。足の血管が狭窄や閉塞をきたすことで起こる病気ですが、高率に心臓病を合併することが報告されており診断検査の進歩から発見も増加しています。当院では常時ABIやSPPという足の血液の流れをみる機械や下肢の超音波検査で検査することが可能です。必要ならMDCTやMRIなどを利用した動脈造影検査で診断します。さらに、薬物療法や運動療法で効果の得られない場合や重篤な血流障害から下肢が壊死に陥るような場合は手術が必要です。

PTA (EVT)	カテーテルを利用して、閉塞し狭窄した下肢の動脈などを拡張する血管内治療を循環器内科と協力して行っています。局所麻酔を行って治療するカテーテルを挿入しますが、挿入する場所は病変部位によって異なります。当院では主に鼠径部、上腕部、膝裏の血管を利用してカテーテル治療を行います。特に膝から下の下肢の治療、透析患者様にも治療を行っています。
-----------	--

下肢バイパス手術	血管内治療（カテーテル手術）が施行不可能な症例や不成功例を中心に外科的にバイパス手術を行います。手術の術式は病変部位によって異なりますが、人工血管などを使用して閉塞した部位の迂回路（バイパス）を作成します。
----------	---

当院では、血管内治療（カテーテル手術）とバイパス手術のハイブリット手術も積極的に行っております。

腹部大動脈瘤

主に動脈硬化等に理由により、動脈が部分的に瘤状に膨れる病気を動脈瘤と呼びますが、中でも頻度として最も多いのが腹部大動脈瘤です。動脈瘤が大きくなると破裂して約9割の方が失血死しますので、非常に致死的で厄介な病気ですが、一般的には破裂するまで無症状で経過します。男性に多く、高血圧などの危険因子を持っている方の発症頻度は高くなります。腹部大動脈瘤の治療適応は、動脈径が4cm以上または短期間に動脈瘤が拡大する場合は手術の適応となります。

人工血管置換術	腹部を30cm程切開して大動脈の血流を一時的に遮断して、瘤の部分を人工血管で置き換える手術です。
---------	--

M E M O

病院概要

患者紹介・逆紹介について

各診療科のご案内

地域ケアサービスセンターのご紹介

訪問看護ステーションのご案内


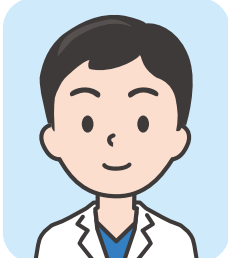

健康管理センター

(巻末) 帳票綴り

脳神経外科

脳卒中や頭部外傷の急性期治療について、地域の中核病院として大きく貢献し高い評価を受けています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	山田 勝 ・脳神経外科部長	・日本脳神経外科学会 専門医 ・日本脳卒中学会 専門医・評議員 ・日本脳循環代謝学会 評議員
	篠田 光紘 ・医員	
	落合 祐之 ・非常勤医師 (第1・3・5金曜日診察)	・日本脳神経外科学会 専門医 ・臨床研修指導医のための教育 ワークショップ終了
	柴原 一陽 ・非常勤医師	
	菊田 もなみ ・非常勤医師 (水曜日診察)	

■ 施設認定

- ・一次脳卒中センター
- ・日本脳ドック学会認定施設

■ 主な治療

- 断らない救急医療をモットーに脳卒中（くも膜下出血、脳梗塞、脳出血など）や頭部外傷などの急性期治療を中心に脳神経疾患の診療を行っております。
- 頭痛、めまい、麻痺、痺れなどの診断・治療を行っております。
- もの忘れ外来では、認知症の診断・治療を行っております。
- 脳神経疾患の早期発見のために脳ドックを行っております。

■ 診療内容・特色

脳神経外科

一次脳卒中センターに認定されており、脳卒中（くも膜下出血、脳梗塞、脳出血など）が疑われる症例の受け入れを積極的に行っております。脳梗塞に対する血栓溶解療法、血栓回収術を実施しています。

また、脳卒中の発症を予防すべく、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤や、脳梗塞の原因となる頸部内頸動脈狭窄症に対する治療を施行しています。これらの治療には血管内治療（カテーテルによる治療）と直達手術（観血的治療）があり、どちらの治療も長所と短所があります。当科では、症例事にどちらの治療が最適であるか判断し、患者さんの希望も考慮した上で治療法を選択しております。

当院の特色の一つである、地域包括ケア病棟を使用し、脳卒中後の上肢・下肢痙縮に対するボトックス治療を行っております。また、脳卒中後の患者さんのレスパイト入院も可能ですので、ご相談ください。

もの忘れ外来と連携し、治る認知症（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫）に対する治療も行っています。

もの忘れ外来

認知症サポート医、臨床心理士による診察及び認知機能検査、頭部MRI（VSRAD）を行い、診断につなげています。

診察や検査時に、ご本人、ご家族が抱える問題や介護困難感への支援や認知症患者への症状や対応についての助言を行っております。

独居、老老介護等の困難事例に対し、ケアマネージャー、地域ケアプラザ等の関係者を交え問題解決への連携を図り、生活改善を行っております。

受診時は、必ず予約をお願いするとともに、実生活を把握しているご家族の同行をお願いします。また、かかりつけ医がいる場合は、紹介状の持参をお願いいたします。

■ 脳ドックのご案内

MRI装置（PHILIPS社製1.0テスラ）による脳検査（MRI）と脳血管検査・頸部血管検査（MRA）を行っております。専門医の診断により、病気の早期発見や予防的治療が行えます。

整形外科

整形外科は、上肢、下肢、脊椎の外傷、障害、疾患など整形外科全般にわたり幅広い治療を行っています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	中島 伸哉 ・ 統括診療部長 ・ 整形外科診療部長	・ 日本整形外科学会 専門医 ・ 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 ・ 医学博士
	鵜之沢 泰裕 ・ 医長	・ 日本整形外科学会 専門医
	有田 将梧 ・ 医員	
	徳橋 泰明 ・ 非常勤講師 月曜日診察	・ 日本大学医学部附属板橋病院 前院長 ・ 日本大学医学部整形外科学分野 前主任教授 ・ 日本整形外科学会 整形外科専門医 ・ 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医 ・ 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 ・ 日本大学研究所 教授
	平山 奈々子 ・ 非常勤医師（火曜日診察）	
	外田 真暉 ・ 非常勤医師（水曜日診察）	
	只野 功 ・ 非常勤医師 （骨粗鬆症外来・木曜日診察）	

	医師名・役職	認定医・専門医
	久保村 達也 ・非常勤医師（金曜日診察）	

■ 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
午前	初診患者 (急患のみ)	有田 将梧	鷓之沢 泰裕	中島 伸哉	中島 伸哉
	徳橋 泰明 (予約診療)	平山 奈々子	大学医師	鷓之沢 泰裕	久保村 達也
大学医師		※毎週水曜日 11:00受付終了	只野 功 (骨粗鬆症外来)		
午後	急患のみ				

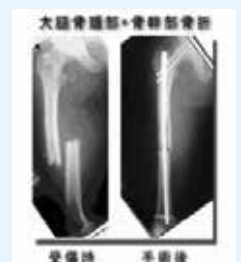
■ 診療内容・特色

- 外来は来院患者数が1日150人と多く、効率の良い医療を提供するため近隣の先生方と協力して対応しております。
- 入院治療は55床のベッドを利用し、急性期の治療からリハビリテーションまでの治療を行っています。
慢性疾患や手術後の長期リハビリテーションが必要と思われる際には、リハビリテーション可能な病院を紹介いたします。
- 予定手術は人工関節、脊椎疾患を中心に行っており、自己血輸血も利用しています。
また、緊急を要する状態では即日の手術を行う場合もあり迅速な対応ができるように努めています。

■ 主な対象疾患・治療

外傷（ケガ）

- 交通事故、労災などの多発外傷、脊椎脊髄損傷などの高度傷害の治療を行います。
- スポーツの傷害、外傷の治療をします。
- 高齢者の骨折：近年、高齢化により高齢者～超高齢者の骨折（大腿骨頸部、脊椎、上腕骨頸部、手関節部など）が多くなっています。
高齢者が寝たきりにならないように、また良い機能が再獲得できるよう治療をすすめます。



スポーツ傷害、外傷

過度の運動に伴う各種障害、成長期の障害、スポーツにおけるケガで運動の早期復帰をめざし治療します。多いものとしては靭帯損傷、膝半月板損傷、骨軟骨損傷、反復性肩関節脱臼、関節部脱臼骨折があげられます。関節部骨軟骨損傷、靭帯損傷、疲労骨折などの診断にはMRIが大変有用です。予約（即日～数日）で検査を行っています。治療では関節鏡視下診断、手術を中心に小切開手術が多く用いられます。



鏡視下半月板切除術

リハビリについて

理学療法士による基本訓練、筋疎通法など機能回復のための運動訓練、自己運動の指導を行います。通常の温熱療法のほかレーザーも利用します。サイベックスにての筋力評価、訓練やエアロビクスインストラクターによる運動指導も行います。

リウマチ性疾患

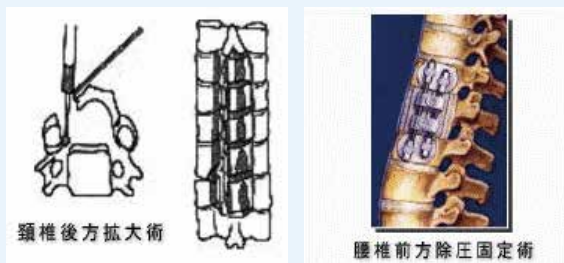
慢性関節リウマチ	内服治療を中心に行われます。手術では、滑膜切除術、下肢の人工関節置換術が多く用いられます。
変形性関節症	運動療法、装具療法のほか、手術では骨切り術、人工関節が多く用いられます。



脊椎疾患

椎間板ヘルニアや加齢による脊柱変形、狭窄などによる各疾患の治療を行います。温熱療法やレーザーなどの理学療法、コルセット、内服、ブロック療法など各種の治療を行います。

各疾患による手術法	
頸髄症	後方拡大術、前方除圧固定術を病状にあわせ行います。
椎間板ヘルニア	後方小切開にての摘出術が多く用いられます。
腰椎の変形、沁り症	神経の除圧後椎弓根スクリュー法、椎体間固定法が行われます。
腰部脊柱管狭窄症	椎弓切除術や脊椎固定術の追加を行います。
腰椎腫瘍や腰椎骨折で神経圧迫のあるもの	椎前除圧固定術を行います。




頸椎後方拡大術

腰椎前方除圧固定術

皮膚科

特定の疾患に偏ることなく、できるだけオールラウンドな皮膚科診療を目指しています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	黒羽根 系一 ・ 医長	
	鎌田 英明 ・ 非常勤医師	・ 医学博士 ・ 日本皮膚科学会 専門医

■ 外来診療担当医表

月	火	水	木	金
鎌田 英明	鎌田 英明		鎌田 英明	鎌田 英明
黒羽根 系一	黒羽根 系一		黒羽根 系一	黒羽根 系一

■ 診療内容・特色

一般外来診療は水曜日以外の平日午前のみになります（11時30分受付終了）。

診療は皮膚疾患一般に広く対応し、近隣の診療所から紹介される難治な症例、手術を必要とする良性、悪性の腫瘍など様々な疾患の患者さんが対象となっています。近年高齢化が一層進んだことも影響してか皮膚の悪性腫瘍の患者数も増加傾向にあり、90歳以上の手術例もまれではなくなっています。良性の小腫瘍などは午後の外来予約手術で対応しています。

また、高齢化と共に近年増加傾向にある糖尿病患者にみられる糖尿病性壊疽などにおいて、できるだけ断肢に至らないように対応すべく、血管外科医、認定看護師、装具業者などと連携しながら診療を行う「フットケア外来」を金曜午後に特設して対応しています。

■ 実績

月外来患者数	2023年度
新患	684人
再診	7,309人
合計	7,993人

手術件数	2023年度
外来	75件
入院	13件
合計	88件

■ 紹介時のお願い




緊急を除き、午前中の受付時間内（9：00～11：30）の受診をお願いします。

可能であれば、前日までに当院地域連携室宛てにご予約をいただければ、診療の待ち時間なども軽減されます。

なお、毎週水曜日は皮膚科休診日となりますので、ご配慮いただきますようお願いいたします。また、常勤医1名体制につき、入院が必要な疾患は他院を紹介させていただきます。

泌尿器科

医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	岸本 裕一 ・ 副院長 ・ 泌尿器科部長	・ 日本泌尿器科学会 専門医
	山本 慎一郎 ・ 医員	
	山本 忠男 ・ 嘱託医師	・ 日本泌尿器科学会 専門医
	井上 貴文 ・ 非常勤医師（水曜日診察）	
	平方 仁 ・ 非常勤医師（金曜日診察）	・ 日本泌尿器科学会 専門医

外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
初診	山本 慎一郎	山本 慎一郎	井上 貴文	山本 慎一郎	山本 慎一郎
再診	岸本 裕一	山本 忠男	岸本 裕一	岸本 裕一	平方 仁

■ 診療内容・特色

排尿障害（前立腺肥大症、過活動膀胱など）および泌尿器科領域の悪性腫瘍（前立腺癌、膀胱癌、腎癌など）に対して手術を中心とした標準的治療を行っています。患者さんおよびご家族の状況にあわせて、手術だけではなく当院でできる最良の治療を提供しています。

尿路結石症、尿路性器感染症（尿路性敗血症、前立腺炎など）、および女性泌尿器科（尿失禁、骨盤内臓器脱など）にも対応しています。

- PSA検査の普及にともない前立腺生検の必要な患者さんが増加しています。当院では、1泊2日の入院で直腸から超音波ガイド下に施行していますが、ここ5年間入院が長引くような合併症はありません。
- 手術は癌（悪性腫瘍）の手術が中心です。ミニマム創手術（手術の傷が7-9cm）に準じた開放性手術を施行しています。前立腺全摘の平均入院期間は12日間、腎尿管悪性腫瘍手術の平均入院期間は10日間です。膀胱癌に対する手術も施行しています。表在性膀胱癌では内視鏡による完全切除を目指し、症例によっては最初の手術の1-2カ月後にもう一度再手術を行い、腫瘍の残存を確認しています。浸潤性膀胱癌で膀胱全摘が必要な患者さんには、可能であればストーマを作らない排尿式代用膀胱増設術も施行しています。
- 当院には外来科化学療法室、緩和ケアチーム、訪問看護ステーションがあり、進行癌の包括的ケアも行っています。
- 前立腺肥大症、尿路結石症の手術も行っていますが、レーザー治療装置および体外衝撃波結石破碎装置は当院にはありません。
- 骨盤内臓器脱や腹圧性尿失禁など女性泌尿器科手術にも対応しています。
- 団塊世代の高齢化にともない、泌尿器科でも癌をふくめた80歳以上の患者さんが激増しています。ときにはなにも積極的治療をしないほうがよいこともあるでしょう。また一方で90歳以上でも可能であれば手術をしたほうがよい患者さんもいらっしゃいます。それぞれの患者さんおよびご家族にあわせた最適な医療を提供したいと考えています。

眼科

眼科は、月曜日から金曜日までの午前中に一般外来を行なっています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	寺田 久雄 ・眼科診療部長	・医学博士 ・日本眼科学会 専門医 ・ボトックス療法施行医 ・PDT療法施行医 ・身障指定医、難病指定医
	小熊 亜弥 ・非常勤医師（水曜日診察）	・医学博士 ・日本眼科学会 専門医
	原田 奈月子 ・非常勤医師（木曜日診察）	・日本眼科学会 専門医 ・ボトックス療法施行医

■ 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
午前	寺田 久雄	寺田 久雄 眼鏡対応★	小熊 亜弥 (手術日)	原田 奈月子 (手術日*)	寺田 久雄
午後 (予約診療★★)	寺田 久雄	寺田 久雄	小熊 亜弥 寺田 久雄	原田 奈月子 寺田 久雄*	寺田 久雄

手術日：水曜日午前（木曜日午前） *：不定期

★：眼鏡士がいますので、眼鏡作成・相談、調整・修理にも対応します（予約制）。

★★：視野検査、蛍光眼底撮影、レーザー治療、手術準備など

初診予約：不要（地域医療支援病院の指定を受けましたので、紹介状をお願いします）

再来予約：予約システムがありますが、11時半までの受付で予約なしでも診察します。

通常の診察受付は、7:50～11:30です。診察開始は9時からです。

急患：平日17時までは随時対応しますので、眼科外来までご連絡ください。

■ 診療内容・特色

対応可能

一般眼科、眼鏡作成、VEGF阻害剤硝子体内注射
眼瞼けいれんや片側顔面けいれんのボトックス治療

手術対応

白内障手術（原則片眼2泊3日）、ロングチューブ以外の緑内障手術
眼科レーザー（網膜疾患、緑内障）（YAG後発切開、SLTは借用にて対応）
眼部疾患（霰粒腫、翼状片、内反症）、先天性鼻涙管閉鎖症開放術
シリコンチューブ留置術など

対応できない疾患

網膜剥離・硝子体手術、光線力学療法（PDT）、屈折矯正手術、角膜移植
※一般のコンタクトレンズ処方はありませんが、円錐角膜などの場合はご相談ください。

■ 特色について

常勤医師（寺田）1名に、水・木曜は非常勤医（眼科専門医）1名と、常勤の視能訓練士、看護師、事務クラーク各1名で診療を行っています。

対応できるのは一般眼科で、高度な診断・治療には対応できません。白内障手術は前日入院して、翌日朝手術（水・木午前）を行い、術翌日退院の2泊で行っています。現在の白内障手術待ちは約1か月程度です。一人住まいで付き添いのいない方や、糖尿病や透析中などの全身合併症のある方、高齢で頻繁の通院が困難な方、両目視力不良の方などの白内障手術も対応しています。地域柄、中国の方で日本語の通じない方の手術も多いです。


またボトックス治療も行っています。

■ 医療設備

- 眼底カメラ（フルオレセイン蛍光眼底造影可能）
- ゴールドマン、ハンフリー視野計
- 網膜レーザー光凝固装置
- スペキュラーマイクロスコープなど
- CENTURION白内障手術装置

放射線科

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	長沼 通郎 ・放射線科部長	・日本医学放射線学会 診断専門医

■ 理念・目標

我々、放射線科のスタッフは、患者の被ばく低減と安全性の確保に努めています。

- 医療事故の予防に努める。
- 医療被ばくの低減に努める。
- 他部門との連携を常に考える。
- 高い専門技術の習得に努力する。

■ 主な検査

放射線科では、各種画像検査（一般撮影・透視検査・CT・MRI・血管造影など）を実施し、画像診断を行っています。

また、当院では健康管理センターを併設しているため、一般健診（胸部X線検査・胃X線検査）・マンモグラフィ（乳房撮影）・脳ドック（頭部MRI）などの撮影も行っています。

■ 診療内容・特色

当院では、1.5テスラの高磁場MRIによる断層画像や血管撮影（MRA）並びに血流画像、多列CTによる3D画像などを利用した各診療科による診断や治療に対応しています。

MRI検査ではMRI画像の統計解析を用いたアルツハイマー病の早期診断（VSRAD）にも対応しもの忘れ外来の診断に利用しています。またMRI及びCT装置は地域医療連携推進のために近隣医療機関からの検査依頼にも随時対応しています。



■ 実績

検査名	2023年度	
	院内 (外来・病棟)	院外 (登録医など)
CT	9,228件	210件
MRI	2,669件	341件
血管造影	307件	
単純撮影	37,220件	

歯科口腔外科

歯科口腔外科として有病者歯科治療から口腔外科疾患に対応しております。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	相澤 聡一 ・ 歯科口腔外科部長	・ 博士（歯学） ・ 日本口腔外科学会認定「口腔外科専門医」 ・ 日本有病者歯科医療学会認定 専門医・認定医・代議員 ・ 日本口腔科学会認定医 ・ 歯科臨床研修指導医 ・ 緩和ケア研修修了 ・ ICD制度協議会認定 ICD (インфекション コントロール ドクター)
	石川 友美 ・ 医員	・ 博士（医学） ・ 日本口腔外科学会認定「口腔外科認定医」 ・ 日本有病者歯科医療学会 専門医・認定医 ・ 歯科臨床研修指導医

■ 施設認定

日本口腔外科学会認定准研修施設、厚生労働省 歯科医師臨床研修協力施設

■ 診療内容・特色

歯科は、近隣の先生方からご紹介いただいた患者様を中心に、顎口腔の領域におけるほぼすべての疾患を対象に診療を行っています。

1. 顎口腔の炎症（骨吸収抑制薬関連顎骨壊死を含む）
2. 顎口腔ののう胞
3. 顎口腔の腫瘍
4. 顎口腔の外傷
5. 口腔粘膜疾患
6. 顎口腔領域の神経疾患（精密触覚機能検査を含む）
7. 抜歯（困難な親知らずや埋伏歯、残根、癒着歯等）
8. 歯科矯正関連の外科処置（抜歯や舌小帯切除）
9. 歯科インプラント

などの外科的加療が必要な疾患を中心に、局所麻酔での小手術から全身麻酔が必要な大きな手術まで行っています。

一般歯科治療では、特に有病者歯科治療に重点を置いています。当科は、併存疾患（心疾患や脳血管障害など）のある患者様の歯科治療に対して、医科の各診療科と連携し、安全に歯科治療を受けられるように心掛けています。また、当科は、インプラントの術前CT（SIMPLANT[®]、iCAT[®]）撮影や口腔領域のMRI撮影など、検査のみの情報提供にも対応しています。

当科は、以下のようなことにも取り組んでいます。

- ・地域の登録医の先生方との連携（登録は随時受け付けております。地域連携室にご連絡ください）
- ・厚生労働省歯科医師臨床研修施設として歯科医師の卒後臨床研修
- ・日本口腔外科学会認定 准研修施設として、日本口腔外科学会認定「口腔外科認定医」や「口腔外科専門医」の養成にも力を入れており、関連施設である日本大学医学部 歯科口腔外科と連携して、当科から口腔外科認定医4名、口腔外科専門医2名が誕生しています（2023年4月現在）。

実績

症例数

2023年度	
外来新患者	448名
紹介患者	326名
入院患者	134名


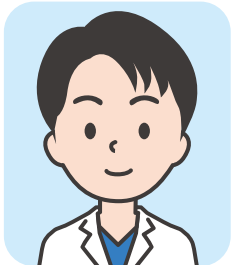
入院手術件数

手術名	2023年
歯槽外科手術	93件
口腔・顎・顔面インプラント関連手術	1件
消炎手術	0件
良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成性疾患等の手術	10件
上顎洞関連手術	1件
癌/前癌病変関連手術	6件
顎顔面外傷手術	3件
補綴前外科手術/顎堤形成手術/骨移植術	5件

麻酔科

常勤医師2名を中心に年間約800例のすべての全身麻酔依頼症例を専門の麻酔科医により管理しています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	増田 都志彦 ・麻酔科診療部長 ・緩和ケアチーム部長	・日本麻酔科学会認定指導医 ・日本緩和医療学会認定医 ・日本専門医機構認定麻酔科専門医
	久保田 直人 ・ペインクリニック内科部長	・医学博士 ・日本麻酔科学会認定指導医 ・日本専門医機構認定麻酔科専門医 ・日本区域麻酔学会認定指導医 ・日本医師会認定産業医 ・日本大学医学部麻酔科学系麻酔分野兼任講師

■ 診療内容・特色

全身麻酔に関して

2名の常勤医：日本麻酔科学会指導医の監督下、全例を専門の麻酔科医が施行・管理致します。年間約800件の全身麻酔症例に対応しています。また当院麻酔科では、硬膜外麻酔やエコー下神経ブロックなどを駆使した、術中・術後の痛み対策を重視した、「安全で痛くない手術」を心がけています。

緩和ケアについて

主に増田医師が中心となって、認定看護師や薬剤師・臨床心理士・リンクナースなどと協働した緩和ケアチームを構成し、癌の苦痛全般の緩和に取り組んでいます。


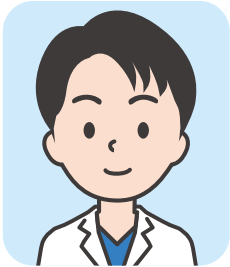
ペインクリニックについて

主に久保田医師が中心となって、痛みの治療：ペインクリニックに取り組んでいます。頸部痛や上肢痛、腰痛や下肢痛、帯状疱疹後神経痛等の各種痛みに対し、各種エコー下神経ブロックや内服薬を駆使した疼痛対策の専門外来を行っています。

ペインクリニック内科

主な対象疾患は腰痛、下肢痛や帯状疱疹に伴う痛みなどですが、「痛み」全般を治療対象としています。

■ 医師紹介

	医師名・役職	認定医・専門医
	増田 都志彦 ・ 麻酔科診療部長 ・ 緩和ケアチーム部長	・ 日本麻酔科学会認定指導医 ・ 日本緩和医療学会認定医 ・ 日本専門医機構認定麻酔科専門医
	久保田 直人 ・ ペインクリニック内科部長	・ 医学博士 ・ 日本麻酔科学会認定指導医 ・ 日本専門医機構認定麻酔科専門医 ・ 日本区域麻酔学会認定指導医 ・ 日本医師会認定産業医 ・ 日本大学医学部麻酔科学系麻酔分野兼任講師

■ 外来診療担当医表

月	火	水	木	金
増田 都志彦		久保田 直人		増田 都志彦
久保田 直人				久保田 直人

■ 診療内容・特色

ペインクリニック内科では「痛み」とその関連疾患の治療を、神経ブロック、内服、レーザー療法等で行っております。主な対象疾患は腰痛、下肢痛や帯状疱疹に伴う痛みなどですが、「痛み」全般を治療対象としております。診察日は、月・水・金曜日の午前中です。火曜日は完全予約制で、神経ブロック、手術等を行っています。

■ 紹介時のお願い

※ペインクリニック内科は必ず、紹介状をご持参ください。

IV 地域ケアサービスセンターのご紹介

当センターは地域医療を担うご開業の先生や介護、福祉に関わる医療従事者の皆様から、患者様の医療に関する連携の病院窓口として、療養支援科・医療福祉相談室・地域医療連携室のスタッフが業務を行っております。

また行政・福祉機関からの入院相談で病名がはっきりしない方など、当センターにてスムーズな受入れ体制を構築しております。

また当院周辺の地域包括ケアシステムの中心となるべく、入院の受け入れから退院時の生活支援に関わることまで、患者様やご家族の皆様をサポートできる体制を整えております。

さらに医療ソーシャルワーカーによる医療福祉相談や、訪問看護師による看護など専門職による医療や福祉の連携業務や在宅療養後方支援を行います。

外国語（英語、中国語、韓国語）による診療希望の患者様には、専属の通訳を配置し、診察室などで医師や医療者との円滑なコミュニケーションを図れるようにしておりますので、安心して受診できる体制を整えております。

退院患者様や在宅患者様、地域住民の皆様には、医療や介護の当院の支援内容のご相談など総合的なサービスも進めておりますので、お気軽にご相談ください。

直通TEL：045-681-9534（8：30～17：00）

専用FAX：045-681-9542



療養支援科のご案内

前方支援…地域の開業医や施設からの入院の依頼に対し、専門科または総合診療科で入院の受け入れを行っています。

後方支援…多職種との合同カンファレンスにより退院支援・調整を行い、医療・看護・介護・福祉・行政のシームレスな連携を行っています。

また**入退院支援委員会の看護師や病棟の専任看護師**と協働し、患者様が希望する在宅での生活を実現するために、当院の訪問看護に繋ぎ、見守りの方からターミナルの方まで、幅広く支援しています。

医療福祉相談室のご案内

このようなことでお困りの場合にご利用ください

- ・ 経済的な心配がある
- ・ 社会的保障制度の利用方法を知りたい
(健康保険証・年金・雇用保険・介護保険・身体障害者手帳・特定疾病等について)
- ・ 補装具(杖・車椅子)や、日常生活具(ベッド・トイレ等)の介護用品について
- ・ 退院後の家庭・職場・学校などへの社会復帰についての心配がある
- ・ 転院後や施設入所など、将来の療養の場に関すること
- ・ 療養生活に伴う精神的なこと

生活上の問題やお悩みを専門の相談員(医療ソーシャルワーカー)と一緒に考え、解決や軽減ができるようにお手伝いします。

地域医療連携室のご案内

地域医療機関からの患者紹介、検査依頼などを受け付ける連携の窓口業務です。

今後も当院の機能を十分に活かし、救急医療や紹介診療等を迅速かつ適切な対応でお受けいたします。

医師・看護師・医療ソーシャルワーカーと連携をとりながらスムーズに患者様の受け入れができるよう取り組んでおります。

また、外国語通訳の職員を配置しております。中国語・英語に対応しております。

外来栄養指導依頼のご案内

当院では近隣クリニック等の先生方から、外来栄養指導の依頼を受け付けております。糖尿病、脂質異常症、高血圧症、慢性腎臓病、肥満症、高尿酸血症などの生活習慣病で、栄養指導が必要な患者様がいらっしゃいましたら、ぜひ当院の地域ケアサービスセンター、地域医療連携室にご連絡ください。

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院 地域ケアサービスセンター

TEL 045-681-9534

FAX 045-681-9542

V 訪問看護ステーションのご案内

訪問看護ステーション

事業所番号：1460490193

管理者：おおうち かずこ
大内 和子
(看護師)



■ 営業時間

月曜日～金曜日 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日・年末年始を除く）

TEL：045-681-9536

FAX：045-681-9561

■ 訪問地域

中区・南区全域と周辺地域

平成27年10月1日に開設し、緊急時対応ができる24時間対応体制のステーションとして、自宅での看取りも行っています。医師の指示のもと、自宅での療養継続を希望される方への在宅療養に必要な医療処置や、患者様及び介護者への心身のケアサポート、リハビリテーション等、自宅での介護支援を行っています。救急病院附属の特性を活かし、緊急時には救急搬送や入院対応など病院との連携が強みです。また、ご家族、地域のサービス事業所とも密に連携しており、今後の需要に応えていけるより良い地域のステーションを目指してまいります。

事業所指定

介護保険（訪問看護・居宅療養管理指導・介護予防訪問看護・介護予防居宅療養管理指導）
医療保険・生活保護（医療扶助）・労災保険・精神科訪問看護基本療養費・障害者自立支援医療・特定疾病治療研究事業・小児慢性特定疾患治療研究事業・被爆者一般疾病医療機関指定

訪問看護のサービス内容

●健康状態の観察

心身の状態を観察し、異常の早期発見や再発防止に努めます。

●生活指導

健康で安全な暮らしができるような生活環境を一緒に考えます。

●退院直後の支援

自宅での生活のスタートをお手伝いします。

●医師の指示による医療的処置・管理

各チューブの管理、床ずれの予防・処置、胃ろうや人工肛門の管理（インスリン注射など）、高血圧などの管理、薬の管理など

●症状に合わせた看護

終末期の看護、認知症の看護、精神科訪問看護など

●リハビリテーション

生活の場でできる訓練や運動、介助方法の指導、安全な生活環境の整備など

●ご家族の相談と支援

安楽な介助方法の助言、介護の負担軽減、ご家族からの相談への対応など

●諸機関との調整や連絡

医師への報告や介護・福祉サービス機関との連携調整

事業所の状況

●看護師：常勤4名 非常勤1名

●利用者数：60名～65名

●利用者年齢：～100歳

●保険別：医療（3割）／介護（7割）

疾患別：1位 呼吸器疾患／2位 がん・終末期／3位 心疾患／4位 消化器・
泌尿器疾患／5位 皮膚疾患

●同法人主治医（60%）他病院や地域の開業医（40%）

訪問看護ご依頼までの流れ

①まずはお電話にてご相談ください

②サービス調整が出来次第、主治医からの指示書のもと訪問を開始いたします。

③毎月1回、報告書を郵送いたします。在宅での療養がその人らしくより安楽に自立し、
過ごしやすいものになるようお手伝いさせていただきます。

お気軽にご依頼ください。

VI 健康管理センターのご紹介

— あなたの健康を応援します —

長い人生を健やかに送っていただくためには、日々の健康づくり、病気の早期発見が欠かせません。

当センターは総合病院併設であるため、先端診療機器と専門医の診断、検査の精度管理、早期フォローを行うことができます。

皆様の健康状態を的確に常に把握・健康増進指導を行い、輝くライフスタイルの確立を応援しています。

ご挨拶

当センターでは、受診された皆様が主体的に健康づくりに取り組み、元気にすごしていただくことをサポートしていきたいと考えております。

健診、ドックの受診の目的は、症状のない方に対し無症状のうちに、がんの早期発見、早期治療につなげることがあげられます。また、もう一つは将来的に病気を引き起こす可能性のある生活習慣があれば、改善につなげる機会として利用していただきたいと考えます。

当センターでは病院併設型のセンターであることを活かし、各専門科の協力の下、医学的根拠に基づいた健診を行い、二次検査や治療が必要とされた場合はスムーズに各科と連携を行っております。

健康管理センター部長 櫻井 由美

認定資格

日本人間ドック学会・日本病院会 優良二日ドック施設認定
日本脳ドック学会認定施設
協会健保生活習慣病予防健診実施機関

○1泊2日ドック（現在休止中）・日帰りドック・生活習慣病予防健診・定期健康診断を行っております。

また、婦人科健診（乳がん・子宮がん）、MRIによる脳ドックも行っております。当院の利点は、各科協力の下、同日に短時間で多くの検査ができることです。

○国や健康保険組合で定められている健康診断項目に加え、ご希望の方にはオプション検査をご用意しております。（骨密度測定、B・C型肝炎、乳がん、子宮がん、腫瘍マーカー、眼底、眼圧、腹部エコー、甲状腺）

○横浜市健康診断（40～74歳 特定健診および75歳以上 健康診査）、横浜市がん健診（胃がん・大腸がん・前立腺がん・B・C型肝炎・乳がん）も同日に外来にて受診できます。詳細については、お問い合わせください。

○当院では女性医師による婦人科健診を行っております。

○検査結果については、後日、郵送しておりますが、人間ドックにつきましては、希望される方には受診当日、結果説明を行っております。

	月	火	水	木	金
1泊（現在休止中）					
日帰りドック	○	○	○	○	○
生活習慣病健診	○	○	○	○	○
定期健康診断	○	○	○	○	○
脳ドック	○	○	○	○	○

○…実施日

■ 申込み方法

健康管理センターでは、様々な健康診断・ドックを取り扱っております。

申込みは電話とFAXで受け付けております。申し込み後、当院よりご案内の資料を送付させていただきます。

健康診断・ドックに関するお問い合わせ

電話	045-681-9540（健康管理センター直通） 電話受付時間：13時～16時30分
FAX	045-663-6903

Ⅶ 帳票綴り

掲 載 内 容

◆ 受診の流れ

◆ 診療予約のご案内

- 外来診療予約申込書（医療機関 FAX 専用）〔別紙①〕
- 診療受付書〔別紙②〕

◆ CT・MRI 検査お申込みから結果発送までの流れ

- CT/MRI (A)・VSRAD 検査申込書（診療情報提供書）〔別紙③〕
- 診療受付書〔別紙④〕
- 予約票（CT）〔別紙⑤〕
- MRI 問診票・同意書〔別紙⑥〕
- 予約票（MRI）〔別紙⑦〕

◆ 内視鏡検査お申込みから結果発送までの流れ

- 内視鏡検査申込書 兼 診療情報提供書（紹介元医師記入用）〔別紙⑧〕
- 診療受付書（上部消化管内視鏡）〔別紙⑨〕
- 上部消化管内視鏡検査についての説明と同意書（QRコード）〔別紙⑩〕
- 上部消化管内視鏡検査についての説明と同意書（患者様控）〔別紙⑪〕
- 予約票（上部消化管内視鏡）〔別紙⑫〕
- 問診票〔別紙⑬〕
- 診療受付書（大腸内視鏡）〔別紙⑭〕
- 大腸内視鏡検査についての説明と同意書（QRコード）〔別紙⑮〕
- 大腸内視鏡検査についての説明と同意書（患者様控）〔別紙⑯〕
- 予約票（大腸内視鏡）〔別紙⑰〕

◆ 栄養相談お申込みから結果発送までの流れ

- 栄養相談依頼書 兼 診療情報提供書〔別紙⑱〕

◆ 心臓超音波検査お申込みから結果発送までの流れ

- 心臓超音波検査申込書 兼 診療情報提供書〔別紙⑲〕
- 診療受付書〔別紙⑳〕
- 予約票〔別紙㉑〕

受診の流れ

紹介状をお持ちの方は、『①新患紹介状受付』へお越しください。

受付後、各診療科へご案内となります。

1 階案内図



診療予約のご案内

① 予約受付・日時の連絡

地域ケアサービスセンター 地域医療連携室にて電話にて予約を受付けます。患者様のご氏名・生年月日をお伺いします。

または、外来診療予約申込書（医療機関FAX専用）〔別紙①〕へ必要事項をご記入のうえ下記へFAXしてください。

※ご希望の日時・診療科・担当医師を教えてください。

予約日程が決定後、『診療受付書〔別紙②〕』をFAX返信致しますので、患者様にお渡しください。



② 受付・ご案内

患者様には、予約時間の15分前までに総合受付1番窓口にご来館いただき、『診療受付書〔別紙②〕』および健康保険証（医療券）『診療情報提供書（書式指定無し）』を別途ご記入いただき提出くださるようお願いいたします。

※もの忘れ外来は完全予約制・同行者が必要です。

※外科・消化器外科は予約制ではないため、11:00までにお越しください。

※乳腺外科につきましては、火曜・水曜は予約制ではないため、11:00までにお越しください。木曜は13:00～15:00まで予約、予約外診療を行っております。

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

地域ケアサービスセンター

TEL:045-681-9534

FAX:045-681-9542

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院

外来診療予約申込書（医療機関 F A X 専用）

申込日： 年 月 日

紹介元医療機関の

名称・住所：

医師名：

TEL：

FAX:

診療科：	科	先生
		※医師のご希望があればご記入下さい
受診予定日：	月 日	時頃
(フリガナ)		
患者氏名：	様 男・女	T・S・H 年 月 日 歳
住所：〒	TEL： - -	
当院への受診歴（有・無・不詳）	患者登録番号：	

送付先 FAX：045-681-9542（地域ケアサービスセンター直通）

※FAX は 24 時間稼働していますが窓口対応時間は

月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）8：30～17：00 です。

※申込書は従前の複写の紹介状用紙をお使いいただいてもお申込みいただけます。

※放射線科につきましては完全予約制で医療機関からのお申込みのみ受付いたします。

※予約枠に限りがございますので、ご希望のお日にちで予約がお取りできない場合がございます。予めご了承ください。

※診察の混み具合等の状況によりましては、お持ちいただくこともございますのでご了承ください。

※予約がお取りでき次第、診療受付書を FAX 送付致しますので、患者様にお渡しいたき、当日紹介状と保険証と一緒に持ちいただくようご案内下さい。

診 療 受 付 書

登録医療機関

登録医師名 先生御侍史

平素は何かとお世話になっております。
ご紹介いただきました 様につきましての事前連絡を
確認いたしました。
受診当日は本用紙(患者様用)とともに、紹介状・保険証等をご持参
いただけます様、お伝えください。

横浜中央病院
地域ケアサービスセンター

きりとり線

診 療 受 付 書 (患者様用)

◎当院1階、新患・紹介状受付(受付①番窓口)にお越しください。

横浜中央病院
地域ケアサービスセンター
TEL 045-641-1921(内線466)

様

予約日 令和 年 月 日 ()

予約時間 時 分

受診科 科

受診希望担当医師

※ 診察の混み具合等の状況によりましては、
お待ちいただくこともございますのでご了承ください。



CT・MRI 検査お申込みから結果発送までの流れ

① 予約受付・検査予約日時の連絡

地域ケアサービスセンター 地域医療連携室にて電話にて予約を受付けます。患者様のご氏名・生年月日をお伺いします。

または、『CT・MRI 検査申込書（診療情報提供書）〔別紙③〕』をご記入のうえ下記へFAXしてください。

※ご希望の検査内容と検査日を教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。

予約日程が決定後、『診療受付書〔別紙④〕』『予約票〔別紙⑤〕 or 〔別紙⑦〕』『問診票・同意書（MRI 検査のみ）〔別紙⑥〕』をFAX返信致しますので、患者様にお渡しください。

② 受付・ご案内

患者様には、予約時間の30分前までに総合受付1番窓口にて健康保険証（医療券）及び『CT・MRI 検査申込書（診療情報提供書）〔別紙③〕』の原本『診療受付書〔別紙④〕』『予約票〔別紙⑤〕 or 〔別紙⑦〕』『問診票・同意書（MRI 検査のみ）〔別紙⑥〕』を提出くださるようお願いください。

③ 検査実施

（検査内容：CT・MRI 画像診断）撮影部位が頭部に限りMRA検査予約が可能です。造影検査の予約は受け付けておりません。

④ 検査の結果報告

読影終了次第、検査結果報告書、CD-Rまたはレントゲンフィルムを郵送いたします。なお、レントゲンフィルムの返却は不要です。

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

地域ケアサービスセンター

TEL:045-681-9534

FAX:045-681-9542

CT・MRI(A)・VSRAD 検査申込書(診療情報提供書)〔別紙③〕

年 月 日

紹介先医療機関名: JCHO横浜中央病院 〒: 231-8553 横浜市中区山下町268 TEL: 045-681-9534(直通) FAX: 045-681-9542 受付窓口: 地域ケアサービスセンター	紹介元医療機関名: 所在地: 医師名: TEL: () FAX: ()
---	---

患者情報	フリガナ 患者名	様 男・女 T・S・H	年	月	日 (歳)	
	住所 〒					
	TEL ()	当院への受診歴 (有・無・不詳)				

保険情報	保険者番号	公費負担者番号
	記号・番号	受給者 (割)
	続柄 本人・家族	その他

※ 検査項目を○で囲っていただき、必要事項をご記入ください。

紹介目的	C T	撮影部位 ()	読影 (要 ・ 不要)
	M R I	撮影部位 ()	読影 (要 ・ 不要)
		方向 : (ルーチン ・ その他 ())	
		検査チェック項目 (CT検査は不要)	
	M R A	心臓ペースメーカー (有 ・ 無)	妊娠 (有 ・ 無)
		脳血管クリップ (有 ・ 無)	避妊リング(材質の確認) (有 ・ 無)
		人工骨頭・関節 (有 ・ 無)	手術既往歴 (有 ・ 無)
人工弁 (有 ・ 無)		ステント・クリップ類 (有 ・ 無)	
刺青 (有 ・ 無)		アレルギー・喘息 (有 ・ 無)	
	義眼・義歯・人工内耳 (有 ・ 無)	体重 () kg	
VSRAD	方向 : (ルーチンのみ)	読影 (要 ・ 不要)	
	VSRAD (初回 ・ 2回目以降) ※検査チェック項目もご記入ください。		

検査希望日 : 第1希望 (月 日) 第2希望 (月 日)

傷病名

既往歴及び家族歴

薬物アレルギー

症状経過(現病歴)

◎ 結果報告は CD-R ・ フィルム を希望します

診療受付書

登録医療機関

登録医師名

先生御机下

氏名

様

【

】

予約日

予約時間

紹介内容

検査・画像診断(

)

撮影部位

(

)

《お願い》

1. 診療当日、予約時間の30分前にご来院ください。

来院時、健康保険証及び医療証等と本書(診療受付書)をご持参のうえ、
当院1階新患・紹介状受付(受付①番窓口)にお越しください。

2. 急用などでご来院できない場合は、検査前日の午前9時から午後5時までに
地域ケアサービスセンター(Tel.045-681-9534)にご連絡ください。

横浜中央病院

《ご来院方法》

電車…

- JR根岸線 石川町駅 北口下車 徒歩3分
- JR根岸線 関内駅 南口下車 徒歩8分

バス…

- 吉浜橋停留所下車 21・54・101・105・106
- 病院案内図



予 約 票 (CT)

患者番号 :

患者氏名 :

生年月日/性別 : ()

予 約 日 時 :

予 約 項 目 :

※ 予約時間についてはその時の状況により前後することがございますのでご了承ください。

CT検査を受けられる方へ

○CT検査とは・・・

X線を使って体を輪切りにした画像を撮影し、体の内部を精密に検査するものです。苦痛はありませんが、検査中は息を止めたり、身体を動かさないなどの制約があります。

○造影CT検査とは

調べようとする臓器や血管がよく見えるように造影剤を静脈から注射し撮影します。造影検査はすべての患者さんに行われるのではなく、診断上どうしても必要であり安全に行えると判断された場合に限られます。

○注意事項

①検査当日

腹部や骨盤の検査の方・造影剤を使用する検査の方

午前中検査の方は朝食を、午後検査の方は昼食を取らないでください。

水やお茶（砂糖、ミルクの入らない物）は飲んでも結構です。

上記以外の検査の方は、食事や水分の制限はありません。

②貴金属類（ヘアピン、ネックレス、時計など）、湿布、カイロなどは、検査前にすべて外してください。

③検査後は食事など、普通にさせていただいて差し支えありません。

④妊娠または妊娠の可能性がある方は基本的に検査を受けることができません。

○検査当日の流れ

検査当日は、受付をして診療科に寄り、伝票を受取り、CT室までお越しください。



患者番号：
漢字氏名：
生年月日：
年齢性別：

MRI 問診票・同意書

検査日時：

安全に検査を行うために、お手数ですがご確認の上、下記のチェックをお願いいたします。

有	無	体内金属・症状など	検査受診の可・不可 確認事項
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	心臓ペースメーカー、人工内耳	* 検査を受けられません
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	脳動脈クランプ	材質の確認が必要
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	術後による体内金属・人工骨頭・人工関節など	材質の確認が必要
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	避妊リング〔女性の方〕	材質の確認が必要
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	義眼	材質の確認が必要
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	冠動脈ステント、大動脈ステント	材質とステント挿入時期の確認が必要
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	インプラント（歯科）	検査可能ですが、材質によっては画像が多少乱れる可能性あり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	刺青・アートメイク 【染料に金属が含まれている可能性有】	検査可能ですが、検査中に熱感・違和感のある場合、中止させていただきます
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	経皮吸収貼付剤（ニトロダーム、ニコチネルなど）	検査前に外していただきます
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	妊娠の可能性〔女性の方〕 （妊娠初期の安全性は確立されていません）	行う場合は、一般的には妊娠22週以降ですが、必ず医師とご相談下さい
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	閉所恐怖症	約70cmの円筒状の中に全身が入ります
身長・体重をご記入下さい。		身長【 】cm	体重【 】kg
* MRIの電磁波の影響を考慮する上で必要となります			

● 体内金属に対する注意事項

・上記の体内金属を挿入されている方

MRIでは非常に強い磁場環境で検査を行うため、体内金属の場合、材質上安全とされているものでもMRI装置から発生する電磁波の影響で発熱による火傷を生じる可能性がございます。

・刺青、毛髪用化粧品、UVケア商品、保温下着、お化粧品（マスカラ、アイシャドー、ラメなど）

鉄成分が含まれている可能性があり、発熱を起こし火傷を生じる可能性がございます。
また、刺青の場合は変色を起こす可能性もございます。

同意書

上記のMRI検査に関する概要と注意事項を十分に理解した上で、MRI検査を受けることに同意します

日付 年 月 日 患者署名

本人記入困難な場合 代理人続柄（ ） 代理人署名

：病状により患者自筆書名不可（詳細カルテ記入） 放射線科 医師 ⑧

予約票 (MRI)

患者番号 :

患者氏名 :

生年月日/性別 : ()

予約日時 :

予約項目 :

※検査当日は予約時間の30分前には来院し、診察を受けた診療科受付へお越しください。
来院が遅れた場合は検査ができなくなる場合がありますのでご注意ください。

MRI 検査を受けられる患者様へ

MRI検査は強い磁場環境での検査となります。

安全に検査を実施するため、以下のMRI検査の概要と注意事項を必ずお読みください。

●MRI検査について

- MRIでは強力な磁石でできた筒の中に入っていただきます。
- 磁気の利用して撮影をするため、**撮影室へは磁石に吸い付く金属類の持ち込みができません。**
- 検査時間はおよそ30～60分必要とします。
- 検査中は**騒音が発生しますが、感染症対策としてのヘッドホン・耳栓の個別での貸出しは行っておりません。騒音が気になる方はご自身で耳栓をご用意ください。**

●食事制限について

検査内容によっては食事制限がございます。ご協力ください。

腹部・骨盤部	検査4時間前から絶食。水分は1時間前から止めてください。 * 膀胱・前立腺の検査の方は検査2時間前から排尿を控えてください。 蓄尿を我慢できない場合はスタッフへ早めにお申し出ください。
造影剤を使用する検査	検査4時間前から絶食。水分制限はございません。
上記以外の検査	制限はございません。

●注意事項

- **補聴器は破損します**ので、ご使用の方は検査スタッフにお申し出ください。
 - **カラーコンタクト**は材質に金属が含まれている場合がありますので、検査前に外していただきますのでケースをお持ちください。
 - **お化粧品は控えめ**をお願いします。
(特にマスカラ・アイシャドー・ラメなどは鉄分を含んでいる場合があり、**火傷の事例**もあるため検査前に落とす
ていただく場合があります)
 - **毛髪用化粧品(主に増毛スプレー、白髪染めなど)**は鉄成分を含んでいる可能性があり、画像やMRI装置に支障が出るため検査を中止する場合がありますので、ご使用の方はスタッフにお申し出ください。
 - 検査室に下記のようなものは持ち込めません。
 - * 金属類【入歯、ヘアピン、ネックレス、ピアス、時計、携帯電話】
 - * その他【磁気カード、湿布、エレキバン、カイロ、保温インナー、金属のついた下着(ブラジャー)】
 - 体内金属の詳細は問診票に記載していますので、そちらをご参考にしてください。
- 別紙の問診票・同意書をご記入・ご署名の上、検査当日MRI担当のスタッフにお渡しください。**
ご不明な点はMRI室にお問い合わせください。

内視鏡検査お申込みから結果発送までの流れ

① 予約受付・検査予約日の連絡

地域ケアサービスセンター 地域医療連携室にて電話にて予約を受付けます。患者様のご氏名・生年月日をお伺いします。

または、『内視鏡検査申込書 兼 診療情報提供書（紹介元医師記入用）〔別紙⑧〕』をご記入のうえ下記までFAXしてください。

※ご希望の検査日を教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。（上部消化管内視鏡は月曜日から金曜日までの9時実施、大腸内視鏡は13時30分、14時の2枠で実施）

予約日程が決定後、『診療受付書〔別紙⑨または⑭〕』『予約票〔別紙⑫または⑰〕』をFAX返信致しますので、患者様にお渡しください。

② 受付・ご案内

患者様には、予約時間の20分前までに総合受付1番窓口に健康保険証（医療券）及び『内視鏡検査申込書 兼 診療情報提供書（紹介元医師記入用）〔別紙⑧〕』の原本『診療受付書〔別紙⑨または⑭〕』『予約票〔別紙⑫または⑰〕』を提出くださるようお願いください。

③ 検査実施

内視鏡センター長施行により検査いたします。

※注意事項に関しては『診療受付書〔別紙⑨または⑭〕』をご参照ください。

④ 検査の結果報告

読影終了次第、検査結果報告書をFAX・郵送いたします。

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

地域ケアサービスセンター

TEL:045-681-9534

FAX:045-681-9542

内視鏡検査申込書
 兼
診療情報提供書(紹介元医師記入用)

紹介医療機関
 独立行政法人地域医療機能推進機構横浜中央病院
 地域ケアサービスセンター 地域医療連携室宛

FAX:045-681-9542

年 月 日

紹介元医療機関名			
医師名			
連絡先	TEL	FAX	
フリガナ 患者氏名	様	性別	男 ・ 女
生年月日	T ・ S ・ H	年 月 日	[歳]
病名			
紹介目的	<input type="checkbox"/> 上部消化管内視鏡 ピロリ菌除菌歴 (有 ・ 無) 経鼻内視鏡希望 (有 ・ 無) <input type="checkbox"/> 大腸内視鏡		
検査目的 既往歴 症状経過 など			
鎮静希望	有 ・ 無 注意:鎮静希望有の場合は当日運転はできません。		
抗凝固薬 抗血栓薬 など 内服の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	(薬品名)	
検査希望日時	①第1希望 月 日 ②第2希望 月 日 ③いつでもよい		

※ご不明な点はTel:045-681-9534(地域ケアサービスセンター 地域連携室直通)へお問い合わせください。

診 療 受 付 書

登録医療機関

登録医師名

先生御机下

氏 名

様 【

】

予約日

紹介内容 診療科(消化器内科) 検査内容(上部内視鏡)

1. 検査前日

検査をより正確にするために、胃を空にしておく必要があります。前日夜9時までに食事を済ませ、その後は検査が終了するまで絶食してください。ただし、水・お茶のみ眠前まではお飲みになって大丈夫です。

2. 検査当日

朝ご飯は食べないでください。血圧のお薬を常用している方は起床したら少量のお水で内服してください。糖尿病の薬は決して内服しないでください。血液をサラサラにするお薬をお飲みの方は主治医に確認してください。

* お薬手帳をお持ちの方は必ずご持参ください。
検査当日は予約時間の30分前にご来院ください。

- ・健康保険証及び医療証等
- ・本書(診療受付書)
- ・予約票

・上部内視鏡検査申込書(診療情報提供書)

をご持参の上、当院1階新患・紹介状受付(①番窓口)にお越しください。

3. 万一ご来院できない場合は、検査前日までに地域ケアサービスセンター 地域連携室(Tel045-681-9534)にご連絡ください。(午前9時から午後5時まで)

JCHO 横浜中央病院

《ご来院方法》

電車…

- JR根岸線 石川町駅
北口下車 徒歩3分
- JR根岸線 関内駅
南口下車 徒歩8分

バス…

- 吉浜橋停留所下車
21・54・101・105・106



患者番号：
漢字氏名：
生年月日：
年齢性別：

説明日

上部消化管内視鏡検査についての説明と同意書

名称：上部消化管内視鏡（経口、経鼻）

予定日時：

検査の目的と方法

＜目的＞口や鼻から内視鏡を挿入し、主に食道、胃、十二指腸を観察し、病気の発見、診断、治療を行います。

＜方法＞検査前日は午後9時から絶食となり、検査当日の朝は絶食で、朝6時に必要な薬のみ内服していただきます。前処置として消泡剤の服用をしていただき、消化管運動抑制などのための注射や胃内に薬剤散布を行うことがあります。内視鏡挿入時の苦痛を軽減するために咽頭または鼻腔に麻酔をします。麻酔薬を経口の場合は咽頭にためて行い、経鼻の場合は鼻腔内に注入後、細い管を鼻腔内に挿入して行います。検査時間は通常5～10分程度ですが、病状や検査内容によっては延長することがあります。必要に応じて病変を見やすくする色素散布や目印のための点墨（適応外使用ですが院内で調剤した製剤を含む）、生検（組織の一部を取って、病理組織検査やピロリ菌検査）や異物の除去、出血性病変には止血処置などを行うこともあります。

当該診療の予想される効果と不利益（危険性、偶発症）について

＜効果＞病状の詳細な把握と治療方針の決定

＜不利益＞学会アンケート調査によると検査による偶発症の頻度は0.012%で、主なものは出血、穿孔などです。死亡例は0.00076%と報告されています。局所麻酔薬には血圧低下、脈拍異常などのショック症状を認めることがあり、検査前からある基礎疾患が悪化することもあります。鎮痙剤の影響により、喉が渇いたり、まぶしく感じたり、尿の出が悪くなるがありますが、時間の経過と共にほとんどの場合は軽快します。偶発症が発生した場合の費用も原則保険診療となりますのでご了承ください。

当該診療方法以外の可能な診療方法とその利害損失について

胃X線検査があります。胃X線検査は胃の全体像や隆起や陥凹した所見を診断するのに有用な検査ですが、放射線被曝の問題があり、組織の検査ができません。また一般的な診断精度も内視鏡検査に劣ります。

当該患者の疾患の将来予測（予後）について

検査結果をもとに、診断、治療方針を検討します。

緊急時の処置に対する同意について

病状に合わせた医学的処置を行います。緊急時は医師に御一任ください。偶発症（消化管穿孔や大量など）が起きた場合は、最善をつくして治療を行います。必要があれば、輸血や外科手術を行う場合もあります。

以上、説明に納得された方は、同意書にご署名の上、診察時または検査当日にご提出下さい。ご承諾が得られない場合は、検査できません。また、同意書を提出された後でも検査を中止することができますので、お申し出下さい。このたび上記の治療に当たり、その内容について必要な事項を説明いたしました。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 横浜中央病院 消化器内科 医師

⑩

【同意書】

令和 年 月 日

私は、上記の検査についてその必要性及び起こり得る偶発症を理解し、検査を受けることに同意します。

患者様氏名（自書）

⑩

代理人様（自書）

⑩

（続柄）

（未成年及びご本人がご署名できない場合は代理の方がご署名下さい）
（患者様の署名又は捺印がある場合には代理人様の記載は必要なし）

患者番号：
漢字氏名：
生年月日：
年齢性別：

患者様控

説明日

上部消化管内視鏡検査についての説明と同意書

名称：上部消化管内視鏡（経口、経鼻）

予定日時：

検査の目的と方法

<目的> 口や鼻から内視鏡を挿入し、主に食道、胃、十二指腸を観察し、病気の発見、診断、治療を行います。
<方法> 検査前日は午後9時から絶食となり、検査当日の朝は絶食で、朝6時に必要な薬のみ内服していただきます。前処置として消泡剤の服用をしていただき、消化管運動抑制などのための注射や胃内に薬剤散布を行うことがあります。内視鏡挿入時の苦痛を軽減するために咽頭または鼻腔に麻酔をします。麻酔薬を経口の場合は咽頭にためて行い、経鼻の場合は鼻腔内に注入後、細い管を鼻腔内に挿入して行います。検査時間は通常5～10分程度ですが、病状や検査内容によっては延長することがあります。必要に応じて病変を見やすくする色素散布や目印のための点墨（適応外使用ですが院内で調剤した製剤を含む）、生検（組織の一部を取って、病理組織検査やピロリ菌検査）や異物の除去、出血性病変には止血処置などを行うこともあります。

当該診療の予想される効果と不利益（危険性、偶発症）について

<効果> 病状の詳細な把握と治療方針の決定
<不利益> 学会アンケート調査によると検査による偶発症の頻度は0.012%で、主なものは出血、穿孔などです。死亡例は0.00076%と報告されています。局所麻酔薬には血圧低下、脈拍異常などのショック症状を認めることがあり、検査前からある基礎疾患が悪化することもあります。鎮痙剤の影響により、喉が渇いたり、まぶしく感じたり、尿の出が悪くなるがありますが、時間の経過と共にほとんどの場合は軽快します。偶発症が発生した場合の費用も原則保険診療となりますのでご了承ください。

当該診療方法以外の可能な診療方法とその利害損失について

胃X線検査があります。胃X線検査は胃の全体像や隆起や陥凹した所見を診断するのに有用な検査ですが、放射線被曝の問題があり、組織の検査ができません。また一般的な診断精度も内視鏡検査に劣ります。

当該患者の疾患の将来予測（予後）について

検査結果をもとに、診断、治療方針を検討します。

緊急時の処置に対する同意について

病状に合わせた医学的処置を行います。緊急時は医師に御一任ください。偶発症（消化管穿孔や大量など）が起きた場合は、最善をつくして治療を行います。必要があれば、輸血や外科手術を行う場合もあります。

以上、説明に納得された方は、同意書にご署名の上、診察時または検査当日にご提出下さい。ご承諾が得られない場合は、検査できません。また、同意書を提出された後でも検査を中止することができますので、お申し出下さい。

このたび上記の治療に当たり、その内容について必要な事項を説明いたしました。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 横浜中央病院 消化器内科 医師

⑩

【同意書】

令和 年 月 日

私は、上記の検査についてその必要性及び起こり得る偶発症を理解し、検査を受けることに同意します。

患者様氏名（自書）

⑩

代理人様（自書）

⑩

（続柄）

（未成年及びご本人がご署名できない場合は代理の方がご署名下さい）
（患者様の署名又は捺印がある場合には代理人様の記載は必要なし）

予 約 票

患 者 番 号 :
患 者 氏 名 :
生 年 月 日 / 性 別 :
予 約 日 時 :
予 約 項 目 :
依 頼 医 師 :

上部（食道・胃・十二指腸）内視鏡検査説明書

月 日 () 午前 時 分 来院して下さい

①診察券 ②予約票・検査説明書 ③同意書 ④問診票をお持ちになり、
総合受付にて受付後、各科外来窓口へお越し下さい。
各科外来にて外来伝票を受け取り、それをお持ちになり、内視鏡室へお越し下さい。

◆検査前日の食事について

月 日 () の夕食は夜9時まで済ませてください。

◆検査当日の食事について

月 日 () は朝から食事はできません。

※お水やお茶(ミルク・糖砂の入っていない物)は検査の1時間前までは飲んで頂いても構いません。

◆検査当日の内服薬について

- ・朝6時までに内服して下さい。
- ・しかし、糖尿病の内服やインスリン注射は中止して下さい。

◆中止薬について

・血液を固まりにくくする薬を内服している場合、中止が必要な場合があります。

中止指示なし

中止指示あり

月 日より () を中止

◆その他

- ・検査の状況により、お待たせする場合がございますのでご了承下さい。
- ・電話による検査の日時の変更はできませんのでご了承ください。

患者番号：

検査日： 年 月 日

患者氏名：

～外来・入院患者様用～

内視鏡検査を実施するに当たっての質問事項

1	内視鏡検査を受けたことがありますか？ 【 はい ・ いいえ 】 □胃カメラ(当院・他院) □大腸カメラ(当院・他院) □その他()
2	治療中の病気はありますか？ 【 はい ・ いいえ 】 □心臓疾患(心筋梗塞・狭心症・不整脈) □緑内障 □前立腺肥大症 □糖尿病 □その他()
3	手術をしたことがありますか？ 【 はい ・ いいえ 】 □食道 □胃 □十二指腸 □大腸 □その他()
4	血液をサラサラにするお薬を内服していますか？ 【 はい ・ いいえ 】 □現在も内服している □ 月 日より中止している □エリキュース □イグザレルト □リクシアナ □プラザキサ □エフィエント □ワーファリン □ロトリガ □アスピリン(バイアスピリン) □プラビックス(クロピドグレル) □プレタール(シロスタゾール) □リマプロストアルファデクス(オバルモン) □イコサペント酸エチル(エパデール) □その他()
5	ペースメーカーはありますか？ 【 はい ・ いいえ 】
6	透析を受けていますか？ 【 はい ・ いいえ 】 / シャント【 みぎ ・ ひだり ・ 腹膜透析 】
7	ピロリ菌の検査を受けたことがありますか？ 【 はい ・ いいえ 】 「はい」の方：ピロリ菌検査の結果はいかがでしたか？ 【 陽性 ・ 陰性 】 「陽性」の診断を受けた方：除菌治療をしましたか？ 【 はい ・ いいえ 】 「はい」の方：除菌は成功しましたか？ 【 はい ・ いいえ ・ わからない 】
8	お薬や食べ物でアレルギーを起こしたことがありますか？ 【 はい ・ いいえ 】 □局所麻酔薬(キシロカイン) □ハッカやミント系 □卵 □その他()
9	本日の来院方法はなんですか？ □徒歩、電車やバス □自転車 □バイク・車 ※鎮静剤を使用した場合は検査当日の車・バイク・自転車等の運転はできません。
10	[女性の方のみ] 現在授乳中、または妊娠の可能性はありますか？ 【 はい ・ いいえ 】

※下記記載のものは検査に時はずしていただくことがございます。

義歯・カギネ・アセリ-類・貼り薬・補聴器 など

診 療 受 付 書

登録医療機関

登録医師名

先生御机下

氏 名

様 【

】

予約日

紹介内容

診療科(消化器内科)

検査内容(

大腸内視鏡

)

1. 注意事項

- ①大腸内視鏡検査説明書に従って検査の準備をしてください。
- ②検査前に2階内視鏡センターで検査着に着替え、点滴を行います。
- ③鎮静を希望される方は検査終了後30分～1時間程度休んでから、帰宅となります。
当日の運転は出来ません。

2. 検査当日の持ち物

- * 健康保険証及び医療証等
- * 大腸内視鏡検査申込書(診療情報提供書)
- * 本書(診療受付書)
- * 予約票+大腸内視鏡検査説明書
- * お薬手帳(お持ちの方)

以上をご持参の上、当院1階新患紹介状受付(①番窓口)にお越し下さい。

検査は予約ですが進行具合により、お待たせする事があります。ご了承ください。

万一ご来院できない場合は、検査前日までに地域ケアサービスセンター
地域連携室(Tel045-681-9534)にご連絡ください。(午前9時から午後5時まで)

《ご来院方法》

電車…

- JR根岸線 石川町駅 北口下車 徒歩3分
 - JR根岸線 関内駅 南口下車 徒歩8分
- バス…
- 吉浜橋停留所下車 21・54・101・105・106

JCHO 横浜中央病院



患者番号：
漢字氏名：
生年月日：
年齢性別：

説明日

大腸内視鏡検査についての説明と同意書

名称：大腸内視鏡

予定日時：

検査の目的と方法

<目的> 肛門から内視鏡を挿入し、直腸から盲腸まで観察し、大腸の癌やポリープ、炎症の有無を調べます。
<方法> 検査施行には腸管内の便を排泄させる前処置は必要で、各個人にあわせて緩下剤や腸管洗浄剤を服用していただきます。前処置が終了した後に肛門から内視鏡を挿入して検査を行います。検査時間は20～30分位ですが、腸管の走行が難しい方、腹部の手術などで大腸に癒着がある方などではさらに時間がかかることがあります。癒着などで疼痛が激しい場合は、検査を途中までで終了する場合があります。腸管の緊張をやわらげるために注射をすることがあります。必要に応じて、変病をみやすくする色素散布、生検(組織の一部を取って病理組織検査や細菌検査)や出血性病変の場合には止血処置などを行います。

検査前の注意

バイアスピリン、アスピリン、パナルジン、プレタール、ワーファリンなどの血液が止まりにくくなる薬を服用している方は事前に申し出て下さい。また、心疾患、緑内障、前立腺肥大、薬によるアレルギーのある方も申し出て下さい。

大腸内視鏡検査の偶発症について

ごく稀に出血、穿孔(腸に穴が開くこと)、ショックといった偶発症が起こることがあります。万が一偶発症が起きた場合には最善の処置、治療を行います。入院、輸血、緊急開腹手術、その他の治療が必要となることもあります。なお大腸内視鏡検査に伴う偶発症の頻度は、日本消化器内視鏡学会第6回全国調査(2016年)で0.011%、死亡率は0.0004%でした。

当該診療方法以外の可能な診療方法とその利害得失について

バリウムなどによる注腸検査があります。大腸内視鏡に比べて、個人差はありますが検査中の苦痛はやや軽い可能性があります。一方で放射線被曝があることや、異常所見があった場合に生検などの病理組織検査を行うことができないなどのデメリットがあります。

鎮静剤について

当院では患者様のご希望により検査時に鎮静剤の投与を行います。鎮静剤を投与すると少し眠たい状態となり検査が楽に受けられます。ただし、全身麻酔のように完全に眠った状態になることはありません。鎮静剤の効果は人により異なりますが半日ほど眠気が続くことがありますので検査当日は絶対に車、バイク、自転車を運転しないでください。鎮静剤投与による偶発症は、注射部位の炎症、静脈炎、血圧低下、ショック、吸呼抑制、呼吸停止などがあります。日本消化器内視鏡学会全国集計(2016年)では偶発症による死亡率は0.0013%でした。万一、偶発症が発生した場合は最善の処置をいたします。

このたび上記の治療に当たり、その内容について必要な事項を説明いたしました。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 横浜中央病院 消化器内科 医師

⑮

【同意書】

令和 年 月 日

私は、上記の検査についてその必要性及び起こり得る副作用を理解し、検査を受けることに同意します。

患者様氏名(自書)

⑮

代理人様(自書)

⑮

(続柄)

(未成年及びご本人がご署名できない場合は代理の方がご署名下さい)
(患者様の署名又は捺印がある場合には代理人様の記載は必要なし)

患者番号：
漢字氏名：
生年月日：
年齢性別：

患者様控

説明日

大腸内視鏡検査についての説明と同意書

名称：大腸内視鏡

予定日時：

検査の目的と方法

<目的> 肛門から内視鏡を挿入し、直腸から盲腸まで観察し、大腸の癌やポリープ、炎症の有無を調べます。
<方法> 検査施行には腸管内の便を排泄させる前処置は必要で、各個人にあわせて緩下剤や腸管洗浄剤を服用していただきます。前処置が終了した後に肛門から内視鏡を挿入して検査を行います。検査時間は20～30分位ですが、腸管の走行が難しい方、腹部の手術などで大腸に癒着がある方などではさらに時間がかかることがあります。癒着などで疼痛が激しい場合は、検査を途中までで終了する場合があります。腸管の緊張をやわらげるために注射をすることがあります。必要に応じて、変病をみやすくする色素散布、生検(組織の一部を取って病理組織検査や細菌検査)や出血性病変の場合には止血処置などを行います。

検査前の注意

バイアスピリン、アスピリン、パナルジン、プレタール、ワーファリンなどの血液が止まりにくくなる薬を服用している方は事前に申し出て下さい。また、心疾患、緑内障、前立腺肥大、薬によるアレルギーのある方も申し出て下さい。

大腸内視鏡検査の偶発症について

ごく稀に出血、穿孔(腸に穴が開くこと)、ショックといった偶発症が起こることがあります。万が一偶発症が起きた場合には最善の処置、治療を行います。入院、輸血、緊急開腹手術、その他の治療が必要となることもあります。なお大腸内視鏡検査に伴う偶発症の頻度は、日本消化器内視鏡学会第6回全国調査(2016年)で0.011%、死亡率は0.0004%でした。

当該診療方法以外の可能な診療方法とその利害得失について

バリウムなどによる注腸検査があります。大腸内視鏡に比べて、個人差はありますが検査中の苦痛はやや軽い可能性があります。一方で放射線被曝があることや、異常所見があった場合に生検などの病理組織検査を行うことができないなどのデメリットがあります。

鎮静剤について

当院では患者様のご希望により検査時に鎮静剤の投与を行います。鎮静剤を投与すると少し眠たい状態となり検査が楽に受けられます。ただし、全身麻酔のように完全に眠った状態になることはありません。鎮静剤の効果は人により異なりますが半日ほど眠気が続くことがありますので検査当日は絶対に車、バイク、自転車を運転しないでください。鎮静剤投与による偶発症は、注射部位の炎症、静脈炎、血圧低下、ショック、吸呼抑制、呼吸停止などがあります。日本消化器内視鏡学会全国集計(2016年)では偶発症による死亡率は0.0013%でした。万一、偶発症が発生した場合は最善の処置をいたします。

このたび上記の治療に当たり、その内容について必要な事項を説明いたしました。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 横浜中央病院 消化器内科 医師

⑯

【同意書】

令和 年 月 日

私は、上記の検査についてその必要性及び起こり得る副作用を理解し、検査を受けることに同意します。

患者様氏名(自書)

⑯

代理人様(自書)

⑯

(続柄)

(未成年及びご本人がご署名できない場合は代理の方がご署名下さい)
(患者様の署名又は捺印がある場合には代理人様の記載は必要なし)

予 約 票

患 者 番 号 :
 患 者 氏 名 :
 生 年 月 日 / 性 別 :
 予 約 日 時 :
 予 約 項 目 :
 依 頼 医 師 :

大腸内視鏡検査説明書

月 日 () 午前 時 分 来院して下さい

①診察券 ②予約票・検査説明書 ③同意書 ④問診票 をお持ちになり、
 総合受付にて受付後、各科外来窓口へお越し下さい。

検査3日前からの食事について (月 日～)

◎検査の2～3日前より下記のような食物は控えて下さい。

- 食物繊維の多い食べ物：とうもろこし・玉ねぎ・海藻類（わかめ、ひじき）・きのこなど
- 脂肪の多い食べ物：焼肉・うなぎ など
- 種のある食べ物：いちご・キウイ・スイカ・キュウリ・トマト・ごま など



◎おすすめのお食事

素うどん・白米やお粥・食パン・豆腐・バナナ・プリンなど消化のよいもの



※水分(お水やお茶)は1～1.5ℓ程度は飲んで下さい。

検査前日 (月 日)

- 夕食は、できるだけ夜7時までに済ませ、飲酒はしないで下さい。
 ※特に前日は上記の食事内容参考にし、消化の良い食事をして下さい。
- 水分（水・お茶のみ）は多めに飲んで下さい。
- 夜9時に下剤(ピコスルファートナトリウム)全量をコップ1杯の水に
 混ぜて飲んで下さい。個人差はありますが、8時間程度で効果が出現します。



検査当日 (月 日)

- ※お食事は検査終了後まで出来ません。
- 起床時：脱水予防のため、水分（水・ストレートのお茶のみ）を飲んで下さい。
- 朝6時 * 血圧・心臓・精神薬などの中止出来ないお薬を内服して下さい。
 * 抗血栓薬など中止指示のお薬を内服しないよう気を付けて下さい。
 * 糖尿病薬の内服、インスリン注射はしないで下さい。
- 朝8時 * 腸管洗浄剤の服用を開始して下さい。(詳細別紙参照)

栄養相談のお申込みから結果発送までの流れ

① 予約受付・予約日時の連絡

当院の地域ケアサービスセンター、地域医療連携室にて予約を受け付けておりますので、お電話でご予約をいただくか、または『**栄養相談依頼書兼情報提供書**』に内容をご記入の上、FAXでご連絡ください。

※ご希望の日時をご連絡ください、ご希望がない場合は一番早い日時枠をお取りします。

予約日程が決定後、『**栄養相談のご案内**』をFAXでお送り致しますので、患者様にお渡しください。



② 受付・ご案内

患者様には、予約時間の20分前までに総合受付1番窓口にお越しいただき、**健康保険証（医療券）** 及び『**栄養相談依頼書兼情報提供書**』の**原本**を提出くださるようお願いください。（検査数値等はわかる範囲でご記入下さい。）



③ 栄養相談実施



④ 結果報告

結果は後日郵送いたします。

栄養相談依頼書兼情報提供書

医療機関名

医師名

フリガナ		性別	生年月日
患者氏名		男・女	大正・昭和・平成 年 月 日 (歳)

該当する箇所に○・レ・数値をご記入ください。

糖尿病(1型・2型) 糖尿病性腎症(1・2・3・4期) 慢性腎不全 高血圧症 病名 脂質異常症 高尿酸血症 肥満症 その他()			
●エネルギー調整食(炭水化物55～60%)●		●たんぱく調整食●	
	炭水化物	たんぱく質	脂質
<input type="checkbox"/>	1200kcal	165g	55g 35g
<input type="checkbox"/>	1400kcal	185g	60g 35g
<input type="checkbox"/>	1500kcal	220g	65g 40g
<input type="checkbox"/>	1600kcal	230g	70g 45g
<input type="checkbox"/>	1800kcal	260g	75g 50g
<input type="checkbox"/>	2000kcal	290g	85g 55g
		たんぱく質 <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 0.6 g/kg <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 0.8 g/kg <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 1.0 g/kg エネルギー <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 25 kcal/kg <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 30 kcal/kg <input type="checkbox"/> 標準体重kg × 35 kcal/kg	
塩分制限 無 有 (6g・その他 g) カリウム制限 無 有 上記の指示以外()			
身長	cm	体重	kg
検査値(月 日)※わかる範囲・検査結果のコピー添付でも構いません。			
血圧	/	血糖値(空腹・随時)	mg/dL HbA1c %
BUN	mg/dL	Cr	mg/dL e-GFR
T-cho	mg/dL	LDL-C	mg/dL HDL-C mg/dL
TG	mg/dL	UA	mg/dL γ-GTP U/L
AST	U/L	ALT	U/L K mmol/L

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

地域ケアサービスセンター

TEL 045-681-9534(直通)

FAX 045-681-9542(直通)

心臓超音波検査お申込みから結果発送までの流れ

①予約受付・検査予約日の連絡

地域ケアサービスセンター 地域医療連携室にて電話にて予約を受付けます。患者様のご氏名・生年月日をお伺いします。

または、『心臓超音波検査申込書 兼 診療情報提供書〔別紙⑱〕』をご記入のうえ、心電図を添付し下記まで FAX してください。

(祝日・年末年始を除く月・火・木・金の16時05分から実施)

※ご希望の検査日を教えてください。ご希望がない場合は一番早い日時枠をおとりします。

予約日程が決定後、『診療受付書〔別紙⑳〕』『予約票〔別紙㉑〕』をFAX 返信致しますので、患者様にお渡しください。



②受付・ご案内

患者様には、予約時間の20分前までに総合受付1番窓口健康保険証(医療券)及び『心臓超音波検査申込書 兼 診療情報提供書〔別紙⑱〕』の原本『診療受付書〔別紙⑳〕』『予約票〔別紙㉑〕』を提出くださるようお願いください。



③検査実施

当日は超音波検査のみ(心電図のない方は心電図も施行)を受けていただきます。注意事項に関しては『診療受付書〔別紙⑳〕』をご参照ください。



④検査の結果報告

読影終了次第、検査結果を郵送いたします。

心臓超音波検査申込書 兼 診療情報提供書

紹介医療機関
独立行政法人地域医療機能推進機構横浜中央病院
地域ケアサービスセンター 地域医療連携室宛

FAX:045-681-9542

年 月 日

紹介元医療機関名			
医師名			
連絡先	TEL	FAX	
フリガナ 患者氏名	様	性別	男 ・ 女
生年月日	T ・ S ・ H	年 月 日	[歳]
検査目的 既往歴 症状経過 など			
	心電図検査希望 有 無		
検査希望日 時	①第1希望	月 日	画像添付(CD-ROM)希望 有 無
	②第2希望	月 日	
	③いつでもよい		
心臓超音波検査は月・火・木・金曜日の16時05分～1日につき1枠でのご案内になります。			
注:地域の先生方へ この検査には必ず心電図(返却不要のものコピー可)をご添付願います。ない場合は当院にて同時に心電図検査を施行いたしますので、上記希望の欄にご記載願います。			
◇検査説明と注意事項◇ ・この検査は、超音波(人に聞こえない音)を皮膚の上からあて、身体の中を観察する検査です。 非常に安全性の高い検査ですので、安心して受けていただけます。 ・検査方法は検査をする部位に直接ゼリーを塗って、その上から探触子(プローブ)を当てて、心臓の大きさ、動き等を評価します。 ・特に食事制限なし			
※ご不明な点はTEL:045-681-9534(地域ケアサービスセンター 地域連携室直通)へお問い合わせください。			

診 療 受 付 書

登録医療機関

登録医師名

先生御机下

氏 名

様 【

】

予約日

予約時間

紹介内容

診療(循環器内科)

検査内容(

)

◆検査説明と注意事項◆

1. この検査は超音波(人に聞こえない音)を皮膚の上から当て、身体の中を観察する検査です。
2. 特に食事制限はありません。
3. 検査当日は予約時間の20分前までに当院1階新患・紹介状受付(①番窓口)にお越しください。
4. ご持参いただくもの
申込書兼診療情報提供書(心電図添付)・予約票・保険情報・あればお薬情報
※なお、心電図についてはご用意ない場合、当院にて心電図検査も施行いたします。

《ご来院方法》

電車…

- JR根岸線 石川町駅 北口下車 徒歩3分
- JR根岸線 関内駅 南口下車 徒歩8分

バス…

- 吉浜橋停留所下車 21・54・101・105・106

■ 病 院 案 内 図



予 約 票

患者番号：

患者氏名：

生年月日/性別： ()

予 約 日 時：

予 約 項 目：循環器系検査 地域専用 心エコー(パルスドップラー)

依 頼 医 師：

※ 予約時間については、その時の状況により前後することがございますのでご了承ください。

心臓超音波検査（エコー）を受けられる患者様へ

超音波は体に無害でやさしい検査です。

○検査方法

- ・ 検査をする部位に直接ゼリーを塗って、その上から探触子（プローブ）を当てて、心臓の大きさ・動き等を評価します。
- ・ 上半身は裸で検査を行います。

○注意事項

- ・ 特にありません。食事はしてもかまいません。

○身長と体重をご記入ください

・ 身長	cm
・ 体重	kg

進行状況により、お待たせする場合がありますので予めご了承ください。

検査の予約の変更をする場合は、主治医の外来日に、来院にて変更となります。
なるべく変更をしないようお願い致します。

各科外来受付・診療開始時刻表

令和6年10月現在

- 紹介状をお持ちの方、急患の方の受付時間につきましては、各科外来へお問い合わせください。
- 担当医が変更になる場合や手術等により休診になる場合がございます。
- 各科専門外来の診療は、各科外来へお問い合わせください。

診療項目	午前 上段：受付時間 下段：診療開始時刻	午後
内科 腎臓・人工透析内科 （専門：腎機能改善外来） 呼吸器内科 （専門：禁煙外来、慢性呼吸不全外来） 消化器・肝臓内科 （専門：肝臓外来） 循環器内科 （専門：ペースメーカー外来）	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	予約及び救急対応 （お問合せください）
外科、消化器外科、大腸・肛門外科 呼吸器外科、乳腺外科、化学療法外科	7時50分～11時30分	紹介及び救急対応 （お問合せください）
整形外科 （専門：骨粗鬆症外来） 水曜日受付終了時間 11時00分	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	救急対応 （お問合せください）
脳神経外科 （専門：もの忘れ外来）	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	救急対応及び紹介 （お問合せください）
皮膚科（水曜日休診）	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	再来予約及び救急対応 （お問合せください）
泌尿器科	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	お問合せください
眼科	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～）	予約及び特殊検査 （お問合せください）
歯科口腔外科（予約制）	7時50分～11時30分	13時30分～16時00分
麻酔科・ペインクリニック内科 （紹介患者・整形外科からの紹介のみ）	7時50分～11時30分 （診察開始9時00分～） （月・水・金曜日のみ）	休診
放射線科（紹介患者のみ）	（予約のみ）	（予約のみ）

独立行政法人地域医療機能推進機構横浜中央病院

外 来 診 療 担 当 医 表

TEL 045-641-1921

FAX 045-671-9872

地域ケアサービスセンター専用FAX 045-681-9542

2024/10/1

	月	火	水	木	金	
総合内科	福本 由香里 (日大) ※毎月第2週のみ9:30より	山田 和志 (日大)	徳永 遼 (日大)	莫根 康平 (日大)	林 慶将 (日大)	
糖尿病内科		稲村 恒明 (PM)		高橋 明裕 (市大・PM)	京原 麻由 (市大)	
腎臓・人工透析内科	宇田 晋	塚本 俊一郎 (市大)	安藤 宙和	宇田 晋	柏木 愛	
		細川 緑	宇田 晋 (PM不定期)			
呼吸器内科 月曜日受付終了時間 11:00	森田 博之	森田 博之	森田 博之	田中 良磨	井戸田 泰典	
	井戸田 泰典					
※当面の間、勝呂先生の外来は休診となります						
消化器・肝臓内科	藤川 博敏	中河原 浩史	有間 修平	藤川 博敏	井上 隼輔	
	金子 桂士	芳賀 大生		菊田 大一郎	河田 洲	
循環器内科	古屋 真吾	古屋 真吾	八幡 貴治	神田 弘太郎	大岩 功治	
	小山 裕	谷江 智輝	山田 将大	大角 彰仁	八幡 貴治	
	ペースメーカー外来	古屋 真吾	八幡 貴治			
総合診療科	谷江 智輝 (紹介予約制)	小澤 康太 (紹介予約制)	小澤 康太 (紹介予約制)	谷江 智輝 (紹介予約制)	神田 弘太郎 (紹介予約制)	
血管外科		柏崎 暁 (AM)	柏崎 暁 (AM)		柏崎 暁 (AM)	
外科・消化器外科	田中 宗伸	吹野 信忠	三松 謙司	吹野 信忠	三松 謙司	
	小笠原 康夫			駒橋 充	小笠原 康夫	
乳腺外科		久保井 洋一 (AM)	久保井 洋一 (AM・PM)	成井 一隆 (PM)		
形成外科 (皮膚科外来)				玉野井 慶彦		
外科系午後救急	田中 宗伸	橋本 大和	橋本 大和	駒橋 充	吹野 信忠 (第2・4) 小笠原 康夫 (第1・3・5)	
整形外科 水曜日受付終了時間 11:00	初診患者 (急患のみ)	有田 将梧	鶴之沢 泰裕	中島 伸哉	中島 伸哉	
	徳橋 泰明 (AM予約診療)	平山 奈々子	大学医師	鶴之沢 泰裕	久保村 達也	
		大学医師		只野 功		
骨粗鬆症外来				只野 功		
午後診療	急患のみ					
脳神経外科	山田 勝	山田 勝	山田 勝	山田 勝	落合 祐之 (第1・3・5)	
	午後診療	予約外来、また救急対応のみ診療				予約外来、また救急対応のみ診療
	もの忘れ外来					
午後診療			菊田 もなみ			
			13:30~15:00			
放射線科	長沼 道郎	長沼 道郎	長沼 道郎	長沼 道郎		
皮膚科	鎌田 英明	鎌田 英明	休 診	鎌田 英明	鎌田 英明	
	黒羽根 系一	黒羽根 系一		黒羽根 系一	黒羽根 系一	
	フットケア外来				柏崎 暁 (PM)	
泌尿器科 (初診担当)	山本 慎一郎	山本 慎一郎	井上 貴文	山本 慎一郎	山本 慎一郎	
	(再診担当) 岸本 裕一	山本 忠男	岸本 裕一	岸本 裕一	平方 仁	
眼 科	寺田 久雄	寺田 久雄	(寺田 久雄)・不定期	(寺田 久雄)・不定期	寺田 久雄	
			小熊 亜弥	原田 奈月子		
歯科口腔外科	相澤 聡一	石川 友美	相澤 聡一	相澤 聡一	石川 友美	
	石川 友美		石川 友美			
ペインクリニック内科	増田 都志彦		久保田 直人		増田 都志彦	
	久保田 直人				久保田 直人	

